

家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十四卷 第八號



日本園児教育研究会雑誌第六十三号

人形えほん

N・H・K連続放送劇でおなじみの飯沢匡作

やん坊 にん坊 とん坊

独特のトツパン

— 既刊増刷出来 —

あかずきんちゃん
じゃつくとまめのき
ぴーたーとおおかみ
三びきのくま
三びきのこぶた
ぷーぼんせんせいの
あふりかたんけん

各冊上製美本 100円



トツパンの絵本はフレーベル館または代理店にてお取次ぎいたしております。

トツパン 東京日本橋茅場町1の20・振替東京41647

新刊

幼児の劇あそび集

A5判 約二百余頁
頒価 二二〇円

当幼稚園において、實際子どもたちが、よろこんであそんだもの二十数種をおさめたものでございます。

劇の長さ、用いられたことは、中に盛りこまれた内容、その扮装、参加人員などの諸点で、子供の自然の生活そのまゝでございます。

無理のない幼児向きの劇あそび集として、皆様にお奨めいたします。

お茶の水女子大学附属幼稚園内

幼児教育研究会編

▽近刊おしらせ△

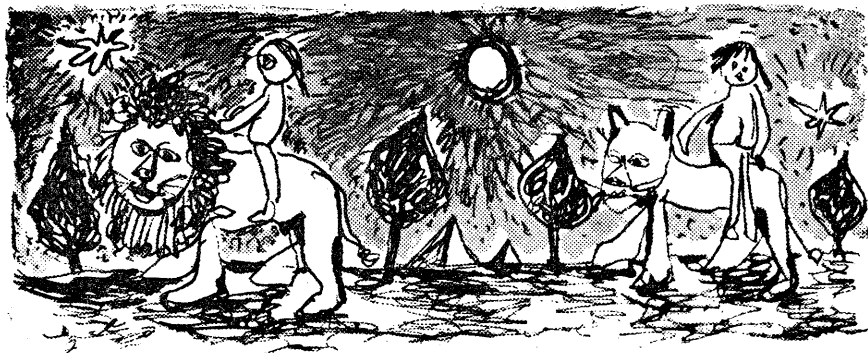
お茶の水女子大学附属幼稚園
幼児教育研究会編

幼児の教育内容とその指導

A 五上製
二〇〇頁定
予価二〇〇円
予二四四円

【内容】幼児の教育内容を扱うにあたって 健康・運動 (一)、健康安全 二、健康習慣 三、運動 四、休息 社会 (一)、独立生活 二、友だち遊び 三、集団生活 四、問題解決 五、社会生活) 自然 言語 (一、会話 二、お話・紙しばい 三、話し合ひ・劇遊び 四、絵本・文字) 音楽リズム (一、歌 リズム 三、楽器 四、鑑賞) 絵画製作

株式会社 フレーベル館



目 次

表 紙 鈴木信太郎

倉橋先生と人形	山田徳兵衛	2
倉橋先生の御死去を惜しむ	高崎能樹	3

最低基準の研究から	牛島義友	5
幼稚園教育に望む	鈴木和夫	9
☆ある乳児達☆	秋山美枝子	12
《劇あそび》海に落ちた麦わら帽子	村井トミ	18

イギリスの幼児教育(中)	小川正通	23
▷夏期保育計画◁	木村時枝	29
地域社会における幼児の特性と保育	友田静恵	33
保育者のなやみ	舟木哲朗	43
米国における学校教育の反省	北川台輔	46
<幼児の劇あそび集>	及川ふみ	22
幼稚園教員免許法認定講習会・保育講習会予告		42

編集主幹
協力委員

及川ふみ
牛島義友
斎藤文雄
多田鉄雄
津守真
波多野完治
山下俊郎
(五十音順)

倉橋先生と人形

山田徳兵衛

忘年の友と申上げてはまことに失礼だが、倉橋先生と私はだいぶん年が違いながら、妙に気が合つて、御懇意願つてからすでに四十年になる。その間、特に親しくしていただいて何かとお世話になつた。

私が、はじめて「羽子板」という本を出した時も、長い序文を書いて下さつた。つまらぬ放送などすると、かならず聴いて下さつて、いつも（すこしひや、かしも交せて）褒め言葉のハガキなどよこされる。手元に残っているのは一昨年かのお節句に、テレビへ私と家内のまづい顔が出た時のものだが、前文ヨロシクアツテ……終りに、

お雛さまは素顔におわすテレビかな

ファンより

とひやかしておられる。

昨年あたりは、御病床にあつても、わざわざ批評のお電話をいただいたりした。私の放送は、人形のことか、東京の下町のことに限られてゐるが、話が下町のこととなると、それからそれと興がのつて電話が長くなり、御不快中なのでこちらがハラハラしてしまふくらいであつた。

先生は、以前からなかなか人形好きであられて、その点もいろいろお教えを受けた。

戦前、私の店で、少女一對の新型の人形を売出したことがあつた。それによい命名を願おうと思つて、先生へ電話をおかけしたことがある。先生は「ウーン」と、一息つかれたが、すぐに「それは仲よし人形がいい。僕の家が中野で、君の店が吉徳だから……」と云われた。この命名式わずかに一分間。こんなところに、先生のウィットに富まれる（というより輪快な）江戸っ子の茶目的な）一面があられた。

この点、先生の御講演や、卓上演説のいつも面白いのと通じるところがあるであらう。

先生が、たしか皇太子さまのことで、皇后さまからお人形を

いたゞかれたことがある。非常に喜んで私にお話なさったのでどんなお人形かとお伺いしたら、袴かみしもを着けた福助と、うちかけを着たお多福の一对だとのことであつたので、それなら数年前私共の店で服装に苦心して謹製してお納めしたお人形です、と云つたら「それはうれしい」と、先生は一しおのお喜び方であつた。そののち、私は、先生のお宅へ伺つて、「二度と会えまい」と思つていた、福助お多福御夫妻に面会出来て、これも実にうれしかった。

◇
先生は、実は日本人形のためにかくれた功績者でもあられる。

それは、一今日、日展の第四部に人形が毎回出陳されているが、この実現運動をした主力の一つ、童宝美術院という団体に先生は同人であられた。昭和十一年、時の文展にはじめて人形が進出したのだが、人形が芸術品として確認され、人形師が芸術家の仲間入りをしたのも、この時からである。

このことは、あまり御存じの向きがすくないのではあるまいか。

以上、思い出すまゝを拙文で述べたが――、私は、先生の御逝去の報を聴いた時、不思議とすゞ浮んだことがある。それは先生は、下町でお育ちになつたのだが、両国の川開きというものをもまだゆつくり見る機会がなかつた……と、いつか話されたので、ちょうど、私の家が両国に近いので、そのうち一度御覧において願ひましよう、と、お約束したが、間もなく御病臥されて、その機を失つてしまつたことであつた。

ことしも、川開きが近づいた。

先生が、あの童顔で花火を見上げるお顔が見たかつた。

ことしは、せめて奥様を御招待しよう。

倉橋先生の

御死去を惜しむ

高崎能樹

倉橋先生は学者ではなかつた……と云う人もある。――世界

の諸学者たちの学説を羅列して、辞典の代りを勤めている人が学者なら、倉橋先生は学者ではなかったとも言える。また世界の諸学者の主張を借着して、自説を權威着けることに汲々としている学者のことを思うと、倉橋先生は全くその類ではなかったとはつきり言える。

倉橋先生は、幼児教育のために全心全霊を打ちこんで、その啓蒙運動に、法制化に、教育原理の確立に、後輩の教養訓練に立派に開拓者としての任務を果たしたばかりでなく、『太陽の如くに照り輝いて』幼稚園をも保育園をも、またその仕事に従事する人々をも、等しく『育ての心』に徹するように導いて下さった。そして感激とよろこびの満ちあふるる仕事にして下さった。

倉橋先生は、理屈はあとまわしにして、先ず大人にも子供にも「こころ」を育てることに大きな成功をおさめられた。頭から頭への教育ではなく、ハートからハートへの教育で立派な「ひととなり」を養うことに大きな実績をあげられた。

人格よく人格をつくる……と云う言葉の通り倉橋先生の人格が、多くの活ける人格を作ったことは云うまでもない。倉橋先生は『先生！』と呼びかける際に、不思議に父を感じ母を感ず

るような親愛の情が持てた。けれども端正な容姿に接すると人間の甘さを越えた尊敬心が深くなった。……倉橋先生こそは『全人的な教育家』であったと云ってよいであろう。

倉橋先生のこうした人柄も、それから又教育精神も、キリストの精神から湧き出していることを私は認める。先生はキリスト教を看板にはせられなかった。けれども先生が若き日に得られた信仰経験が、ずっと後々までも先生の思想と生活の根源となっていたことを認めて、私はそれをこそ尊く思う。

キリストは学者ではなかった。けれども二千年を通して多くの聖者を——大人物を——大人格者を——世にいだす原動力となった。またすべての人々を幸福にし、罪と穢れから救い出す力の源にもなった。

人間の発達力には限度がある。神の育成力には限度がない。有限が無限を欲求して日々新たに発達しゆく生命の道を、倉橋先生は理解しておられた。それだから先生は、最も謙遜な幼児の心に徹して、保育道に生命をかけられたのである。

私は日本の保育界に、先生がおられなくなったことを——明星がかくれたように——淋しく思う。

(東京・阿佐谷幼稚園長)

最低基準の研究から

牛 島 義 友

今日保育所の最低基準は異常な関心の的となつてゐる。その中でも特に保母一人当りの受持幼児数、或いは幼児一人当りの坪数をめぐつてこの基準が高すぎるとか、もっと緩和してほしいとの要望が強くなされてゐる。保育所の場合、四才児以上保母一人三十人とか、一人当り〇六坪という基準では経営が出来ないとか、〇・三坪ぐらいでも立派に保育が出来ると主張される園長さんもいて議論が沸騰してゐる。これは単に議論の為の議論ではなく、経営が成り立つかどうかの重要問題であり、国としては予算の増減の問題ともなるので、うかつに結論の下せない重大問題である。

しかしこれは、経営者や厚生省だけの問題ではなく、保母や父兄や何よりも子供自身にとつての重大問題である。幼児保育に使命を感じ立派な保育をしようと思うほど余りにも多くの子供を受け持たされたのでは良心的な保育は困難となる。保育そのものに対する疑惑を感じてくるであろうし、保育所にさえ預けておけば安心して仕事に励めると思つてゐる母親たちを裏切ることになるし、又何よりも子供自身が大切な幼児期を順調に発育させることができず、放任、愛情不足、或いは歪められた姿のままひねくれていくこととなる。

またこの問題はただ保育所だけの問題でなく、幼稚園においても同じ問題であり、狭い部屋の中に多勢詰め込んで果たしてよい保育ができるであろうか。理想的な保育をするためには何人ぐらゐのグループが一番望ましいかは是非とも知りたい問題であらう。

かかる問題を決定する場合に科学的根拠に基づいて決定するのが望ましいわけではあるが、従来とかく経験的

に或いは政治的にのみ決定される傾向があった。現行法が最初に制定された時も有力な保育経験者の経験による推定、アメリカの実情についての調査、或いはGHQ側からの要望、それに対する日本の実情からの訂正等によって具体的な数字が決まったかのように聞く。最後は経営や予算にひびく問題であるので政治的に決定されるのは当然であるが、その資料としては厳密な科学的な材料が数多く用意される必要がある。今回は厚生省からこのための科学研究費が出され、数ヶ所の研究機関において研究され一応の中間報告も出されるような段階となった。しかしその結果は影響する所が多いので部外秘の扱いをされているのでその結果には触れることを避けるがこの研究に参加しているうちに感じた一、二の問題を取り上げてみたい。

保母一人当りの子供の人数を考えることによって保育が容易になったり困難になったりすることはわかるが、さてこれを客観的に数量的に算出しようか疑問に感じることではあるが、実際に研究をしてみると、それぞれの指標に基づいて余りにもはっきりした数が出るのに驚いた。

例えば実態調査によって各施設において一人当り何人の幼児になっているかを算出すると、公立と私立とでは公立の方が少しく人数が多かったり、全体の平均数が意外にも三十人以下の少数になっていたりする。子供の行動を観察していると、保母さんの言うことを聞かなかったり、わき見をしたりいたずらをしたりと、いろいろな行動がみられ、子供の人数がふえるに従って一クラスの中のこのような行動がふえてくるのが当然であるが、ただ人数に応じて増加するだけでなく加速度的に増加している。例えば二十人の組を二倍にして四十人にするこのような逸脱行動が四倍にふえてくる。

これはクラス全体の行動数を測定したいわば巨視的測定の結果であるが、次に子供一人々々の行動を微視的に観察しても全く同じような傾向があらわれてくる。即ち、同じ一人の子供が一分間に示すあらゆる行動を記録しこれを五回ほど繰り返し返して記録する。次に子供のクラスの人数を増減してみても、同じ子供がそれに応じてどのような行動の変化をもたらすかを細かく計算してみた。そうすると子供が示すわきみをする程度の軽度の困った行動は二十人グループは比較的多くあらわれているが、三十人、四十人組になる程少なくなり、反対にいたずらをしたり保育の妨害をするような悪質の困った行動は人数がふえるほど増加している。従ってこの二つの行動をグ

ラフで書くと、一方は下り、一方は上りこの二つの線が交叉する点が出てくる。この交叉点を一つの限界点と考
えることができよう。即ちこの限界点以前においては、子供の困った行動といつても軽度のもので我慢ができる
が、これ以上人数がふえると悪質の妨害行動が多くなって、保育にたえなくなってくるわけである。即ち人数が
増加すると、一人一人の幼児の行動の質が変わって来て、おとなしく遊んでいたものが乱暴になったり、保母の言
うことをきかなくなったり、妨害的な行動をするように変わってくる。しかもこのように扱いくくなった子供の
数が増加してくるので、二十人と四十人とは、単に骨折が二倍になると言うものではなく、四倍にも六倍にも
増加して来るものである。

又この行動の変化も保育の場によって相異してくる。スキップや製作に較べると紙芝居の場合は、比較的人数
の増加によって保育が混乱することの少ないものであった。保育所などで、人手が足りないときには、よく紙芝居
がなされるのは、もっともなことだとうなづかれる。

或いは全体の雰囲気、即ちおとなしく製作をしているとか、騒々しくさわいでいるという感じを正確につかむ
ために十六ミリを使って十秒間全体の行動を撮映し、それを後で多くの人たちに評定してもらった。即ちクラス
の人数や撮映した保育所の名前などは伏せておいて沢山の撮映場面を次から次と示し、その場面が保育にのつて
いるか否かによってABCに段階づけてもらった。そうするとやはり不思議にも組の人数の相違によつてその評
定点がちゃんと変わってきて、望ましい人数はどの辺であるかということを示す資料がえられてくる。

或いは子供の製作品を通して同じような考察ができた。即ち一定の製作の課題をだし、こちらが指示した通
りに作ったか、それを無視して勝手に作ったか等を調べてみると、指示通りにしたよい作品は組の人数が少ない
方に多く、不良な作品は多人数の組の方に多くなってきた。この点からの限界人数を出すこともできた。

或は保母さんの子供に対する態度を観察していると、幼児数の少い時には個人的指導が多いが、人数が増すと
集団的指導が多くなり、一人一人の子供にかまったり注意したり誘導することがなくなってくる。又体を動かして
指導していたのが、専ら言語的指導に変わってくる。この言語も初めは積極的に考えたり、指導する言葉が多い
のが、人数が増加する程、子供の質問に対する答とか、受身の発言が多くなって来ている。このようなことは幼

児の個性に馴した保育から段々遠ざかるわけであらう。

保母さんが、このように指導の形を変え、余り身心を消耗しないような態度に変わって来るのは、当然の自己防衛であらう。このように保育エネルギーを小さくするように努力しても、尙彼女たちの疲労状態は急激に増加してくる。質問紙でたずねてみても、疲労に苦しみ、声もかすれてくるのが訴えられるが、疲労測定をしてみるとはっきり現われる。目のちらつきによる測定では三十人ぐらいまでは疲労の怒限度内であるが、それを超すと翌日の保育にも影響する著しい疲労状態に陥入るようである。一般に保育所保母の労働は、非常に過激であることがはっきりして来た。工場の女子従業者などは女子の職業の中で一番激しいものと考えられていたが、保育所保母の方が、それ以上に激しいことが数字の上で現われて来たりしている。

このようなことを矢張科学的な調査をし、一定の指標で測定してみても明らかになることであって、主説的な訴えや漠然とした感じで考えたり、処理するよりも、科学的客観的測定の必要なことを痛切に考えさせられた。

これらの研究は更にもっと多くの点から研究され、またより多くの実験を重ね、又異った地域の施設、或は季節を異にした研究を行う必要がある。このような研究が積重ねられて、一人の保育者に対する望ましい幼児数が設定されてくることであらう。

又考えてみれば、人数の点一つを定めるにも、随分多くの研究がなされなければならないのに驚く。元来幼児の教育に関しては、余りに多くのことが、単なる経験に委ねられていた。カリキュラムや、保育内容、言語指導とか数の導き方なども、分らないことが余りに多い。これを一つ一つ科学的に研究していかなければ、保育はいつまでたっても昔と同じ水準に止り、素人からかき廻されても、自信を以て保育を進めて行くことはできない状態に残るであらう。

幼稚園教育に望む

鈴木和夫

私は今まで小学校教員としての経験ばかりで幼稚園の経験は少しもない。しかし受取る一年生の中には半数以上の幼稚園、保育園の卒業生があつて、そのつながりの上の小学校である。

一年生の受持と教育懇談会をするといつても入学前の生活、即幼稚園時代の教育への希望が多少なり必ず出て来る。

幼稚園から小学校へ直結した無駄のない合理的な教育が行われたら今の小学校教育はもっと充実したものになるだろう。しかし当地の現状では到底、達せられないことである。幼稚園はそれぞれの私立幼稚園であり、保育園であつて、公立小学校との緊密なる連絡等考えながらも不可能であつたのである。

たまたま今回、当江尻学区に、学区立とも云うべき、学校幼稚園設立のはこびとなり、はからずも、その園長を委嘱され、はじめの名ばかりではあるが、幼稚園教育に直接タッチする機会に恵まれ、日頃小学校として、幼稚園に望むこと、幼稚園から小学校へ望むこと等の一端を話合える機会を与えられたのである。

以下は私が小学校長として日頃考えるところを、素直に江尻幼稚園職員に申し上げた数項である。一般幼稚園教育にたづさわる人達に参考となれば幸である。

一、幼稚園から小学校へ一貫した教育にしたい

現在本校入学児童は幼稚園から50%、保育園から27%、家庭から23%の割で入学して来ている。随つて学校では各種類の公私立幼稚園、保育園、更に家庭からとマチ／＼の教育を受け又全々受けていない児童を一定の線までに揃えるのに少くとも一学期は要するのである。これは一定の線に揃えないと幼稚園教育は小学校に於てから廻りする恐れがあるのである。

本校に於て家庭から直接、入学して来る児童を見ると、家庭の貧困なもの、又一人子、末子、長子等で、他の幼稚園教育を受けて、嬉々として元氣よく学校生活をして居る中に卑屈感を持つたり、劣等感を持たつたりして、他の児童より立ちおくれを来たすとすれば、それは考えなければならぬ問題である。対策としては貧困児童の爲には保育施設を拡充し、国の力においてこれを収容し、我儘な子供達の爲にも幼稚園教育を理解させて、収容したならば、全児童の一年保育位は可能の様に考えられるので、こゝに小学校と幼稚園とに一貫した教育が出来るのではないだろうか。

一、幼稚園教育過程にはつきりした段階を

小学校から見た現状は保育園を出た子供も幼稚園を出た子供も大した違いを見とめない。更に驚くべきことは幼稚園等に於て一年保育も二年保育もさしてその差が見とめられない。むしろ長く教育された者の方が、我儘で依頼心が強くて乱暴であつかいにくい子供が多い様な声がかかされる様では、何かしらその教育方法に研究の余地が残されて居る様に思われてならない。もっとその幼児の心身の発達過程を段階的に研究し、その生活指導がより合理的になるべき

であると思われる。

三、教科過程についての御願ひ

○文字について

入学当初から自分の名前だけは読めないと、とても不自由であるから、せめて名前だけは読める様には小学校での一様の声である。しかしこれが行き過ぎて、教え過ぎる傾向はないか、特に文字の書き方まで習得して来る児童があるが考えものである。これが正しく教えられて来るのならまだ良いが時に小学校での筆順と一致せず、先入観となった、間違つた筆順になやまされる事が度々あるのである。これは父兄の中に文字等もなるべく多く教え込む幼稚園が進んだ幼稚園なりとの誤つた考えを持つものがあるがこれに迎合してはならない。幼稚園にはその発達過程に応じた指導があることを忘れてはならない。

○言語について

幼児言葉も入学が近づくにつれて正しい言葉にきりかえて正しい言葉を使わせてほしい。幼稚園には独特の幼稚園言葉があつて、先生同志の間までその言葉が使用されて居る様である。お幼稚(幼稚園のこと)僕ちゃん(男の子の愛称)お絵かき(図画を描くこと)等々。

○しつけについて

一般に幼児である為少し遠慮しすぎ甘やかされていないだろうか。小学校で疑問に思う点は長く幼稚園に学んだものに依頼心が強くなつて来ていることである。原因は色々あるが、若し園児獲得の為に父兄に遠慮し児童を甘やかして、順次自主的に育てられるべき

ものを逆に依頼心を育てたとしたら最もいましむべきことである。小学校に来て一寸むづかしい仕事にぶつかると、すぐ「先生やうて」と云つて自分で工夫し、苦心して成しとげ様とする態度に欠けている児童を見受けるのは残念である。たとえ出来上つた図画工作は下手でも、自分の工夫努力によつて出来上つたものこそ価値あるものであることを知らしめたい。幼稚園児の作品の中にはどこまでが児童で、どこまでが教師かわからないものがあると見るのは私ばかりではないと思う。

次に示す様な日常生活のしつけは是非お願いしたい。おじぎの仕方。椅子での正しい姿勢。手の洗ひ方。手拭の使ひ方。はきものぬぎ方等はその正しい方法で習慣になるまでしつけていただきたい。

○保健について

幼稚園に於て日常保健上のことについてはかなり、親切丁寧に指導して居るのであるから、これらについての記録を小学校に充分連絡してほしい。特に予防注射等の記録は小学校では是非必要とするものである。チフスの注射の施行回数、ツベルクリンの結果、BCG、チフテリア。等。

四、経費について

前述の通り幼稚園教育を出来るだけ一般化して普及させ小学校教育と一貫した無駄の無い教育をしたいのであるがこれには先づもつと経費のかゝらない幼稚園。もつと授業料の安く、行き易い幼稚園としたいものである。これには施設とか経費に多くの費用を要するので、国でも充分なる補助をすべきである。幼児教育の必要を説き

ながら何の考慮も払わないのは、吾々の最も心外とする所である。所がこの教育機関である幼稚園を營業的に考へて、いたずらに高い授業料によって高い負担を父兄に負わせる向があるとすればこれこそ最もいむべき事である。その為、園児をお客扱いにし、甘やかすために依頼心を強め泣きむしにするのである。幼児教育の逆行、これより甚しいものはないのである。

五、小学校との連絡

今迄申し述べたことは要するに、小学校と幼稚園とがよく連絡し合えばすべて解決する問題である。その連絡があまり少な過ぎると云うことである。

先日、私は東京のある公立小学校とその附屬幼稚園を視察した。目的はその連絡はどの様にして行われているかと云う事である。この幼稚園の園長先生に色々と御親切な御指導を受けたのであるが、やはり結論的にはもつと緊密な連絡を取りたいのだが、との話して全般的に充分な連絡が取れて居らないのではないかと思われた。それも一般的に大学は高校へ、高校は中学へ、中学は小学へ、小学は幼稚園と云つた、上級学校が下級学校への呼びかけが少ない様に思われる。各学校は常に上級学校にばかり頭が向いて居る様であるがこれは考えものである。

私は次の様な事をして幼稚園と小学校との連絡をとっている。

(1) 授業参観会

○一年の授業を幼稚園の先生に見てもらつて其の後の成長ぶりと小学教育の認識を高める。

○幼稚園の指導ぶりを一年の受持に見てもらつて幼児教育を小学校

の先生にも理解させる。

(2)、一年の受持と幼稚園の受持との懇談会を催す。

(3)、行事を共同でやる。運動会、音楽会、等。

(4)、幼稚園行事の手伝。運動会前の準備、教室、運動場の清掃、等上級生が教師と共に手伝う。

(5)、施設、備品の交換、融通使用。

運動場、教室、幻燈、スライド、遊具等。

園長と校長を兼ねているので此の点、誠に都合が良い。

六、幼稚園の先生の良さ

先日幼稚園の園長会議の席上、議長の方から、座談的に、幼稚園の先生ほど忙しいものはない。女の若い先生等、土曜、日曜もなく、下着の洗濯も出来ないのもので気の毒だとの話があつて、私は実は驚いたのであつた。

早速小学校へ歸つて先生方に、

「幼稚園の先生方も下着を洗うひまもない程忙しい。忙しいのは小学校ばかりでは無い」と云つて話したのであるが、要するに子供の教育は、きりのない仕事で熱心になればなる程忙がしくなるのだとの結論を得た。たゞ小学校と比べると、雑務が少く諸会合が小学校ほど無いので直接教育に関係ある仕事に没頭出来る。これが何より羨ましい点である。放課後等、明日の教育の為、共同して準備している様子等。ほんとに美しい姿である。

七、母の会の協力

子供が小さいだけに、母の会の協力が熱心で、献身的である。

(清水市立江尻幼稚園)

ある乳児達

秋山美枝子



ある乳児院で、今十六名の親を知らない子等が生活している。以前は殆ど捨児ばかりであったが、今は半数が親に連れられて来た子である。時々親が訪ねて来るが勿論顔など覚えていない。マンマの次にセンセイの言葉を覚えて育つ子等である。約四坪の病室兼観察室、七坪の匍匐室、六坪の寢室があるが、寢室が狭いので、どの室にも寝ている。昼間は匍匐室で過ごす訳だが、暖かくなれば廊下やべ

ランダも遊び場となる。靴を穿いて外へ出るのは大好きだ。寢室には小さい赤坊がねているが、柵の浅い寝台なので、歩ける子がいると赤坊の顔を叩いたり、眼を突いたりするので、危く入れて入れられない。然し彼等は一寸の隙があるとすぐ入り込もうとする。鍵がかかかっていないと見ると、すぐ開けて入って行く。全くどんな隙間からでも流れ出る水とそっくりだ。おむつを当てた大きなお尻を振り振

り、ぞろぞろと流れ入り、各々好きな所へ潜り込む。さあ出ましよう、廊下の扉を開けると溢れる様に声を上げて駆けて行く。

この子等の毎日は、七時朝食、十一時屋食、十四時おやつ、十七時夕食で、昼寝は十二時から。一時間―一時間半、就寝は十九時、起床は五時過ぎから六時だが、早くねる子、ねつきの悪い子、いろいろの型がある。赤坊は、六、十、十四、

十八、二十二時の五回食だが、三ヶ月以内の子は六回の授乳から始まる。入院して数日は夜も泣くが、小さい赤坊程慣れるのが早く慣れると殆ど泣かなくなる。それが大きくなって寝台から下りて遊ぶ様になると、他との摩擦が多過ぎて泣くことが多くなつて来る。食事の前は特に賑やかだ。洗って貰った両手を揃えて待っているのだが、待ち切れなくてきゃあきゃあ催促していた子も、頂きますをして食べ始めると急に静かになる。食べさせられていた子が自分で匙を持てる様になると、零しながら一人で食べようとして、一寸でも触られるのを嫌がる。赤坊の時から此処で育つた子は何でも食べるけれど、大きくなつて来た子には偏食するのが多い。が、暫くすると何でも食べる様になる。この事は大変いいことだけれど、此彼等の大事な食事を、落ち着いて楽しく食べられる様に躰け度い。よ

く囓んで食べることも、最後まで立たずに食べることも、拗ねて引繰返つたり、匙を投げついたりしないで済む様に、始めから終りまで皆が満足して食事を終えることが出来る様に、良い習慣をつけてやり度い。少しのことも見落さずに皆に注意が届く様であり度い。しかし實際は担当者が不足で思う様にならない状態である。

もう一つ、早く躰け度いと思うのは排泄のこと。朝起きた時、朝食の前後、昼食の前、昼寝の前後、夕食の前後、就寝の前、夜中にと、一日に何回か便器に掛けさせるのだけれど、小水の近い子はこの間にもしてしまう。夏になれば昼間はおむつをはずし、夜も暑くなると間が遠くなるので、なるべく早くおむつなしで過せる様にし度いが、便だけは小さい時から便器にする癖をつけ度い。ゆつくりと落着いて掛けさせ、うんしなさい、う

んうんしなさいと言つて、せかさずにさせる。便器にした時は大いにほめてやり一緒に喜んでやる。毎日同じ時刻に続け習慣となる様にしてやり度い。そしてそれを朝する様にしてやり度い。毎朝起きてすぐ便器にかかり、気持のよいことを分らせ良い習慣となる様に。

三ヶ月頃から果汁等を与え次第に離乳食に進み、一年前後で大きい子等と同じ食事になるのだが、推定で作られた戸籍簿の生年月日では不都合な場合もある。保育はじめてどんどん離乳が進められる状態なのに、戸籍上ではまだまだ離乳に早い月令であるというのでは、記録するのもにも変な具合である。又親が判つて本当の生年月日は五ヶ月も大きかったという反対の場合もある。大体此処へ来る子は栄養失調の様なのが多いけれど、殆どが体が標準以上に育って行く。

A、二年三ヶ月、二ヶ月で来た。ある

区役所の廊下に捨てた親は後からすぐ判ったが、生活能力なく勿論正婚でない。体が非常に小さいのに顔ばかり大人臭く異様に感じる。心身共に遅れていて特異な行動をする。打伏せにねていて床の上にとすんどすと額を打ちつけるのだ。眠る前にやり出すので傍に付いてやるのだが、夜中にも突然やり出す。起きている時は寝台の手摺に摺って声を出しながら、どかんどかんとやり出すと、木製の小さい寝台は動き出し、うっかきしていると赤坊の方へ乗り移られて、とんでもない悪戯をされて了うので、漕ぎ出されない様に紐で結び付けられたりもする。下へ下りると扉などのかたかたと動く所へ坐って後頭部を打ち付ける。愛情の不足からというけれど、彼は赤坊の時から乳児室勤務以外の者達から特に可愛がられて、毎日の様に抱いて連れ出されていたのだが。愛想は一番よい。赤坊

の時は普通に乳が吸えなかったが、食べる様になったら、ばくりばくりと大口を開けて、うっかりしているとき好きな野菜は他の分まで食べて了う。欲しい時の催促は悲鳴の様だ。

B、二年二ヶ月、推定二ヶ月の時、新宿のあるニュース映画館の小母さんに抱かれて来た。首から背中、股は膝の下までひどいただれ様で、ただれが治ってからも汗もが出来たり、ストロフルスが出来た。赤坊の時は哺乳瓶が空になると必ず泣いたが、今も一番の大食児で他の子等が三分の一も食べていないのにペろりと平げて、お代りなどすると切りがない程、何時までも空の食器を離さぬ。小さい時から首がない程に肥っていて少しも手がかからなかったが、一番人にくっついたがる。赤坊の時人さし指を吸ったりよだれ掛を吸ったりしていたのが矯ったが、今でも台布拭や雑布を手にする時と吸

われて了う。

C、一年八ヶ月、推定二ヶ月で来る。新宿のあるデパートの手洗所で見付けられた。十ヶ月の時里親に貰われて行ったが、半年後に戻されて来た。可愛くてたまらないのだが、手の親指が一寸曲っていて真直にならないからという理由だ。自分の子なら曲っていても仕方がないが貰って育てた子が大きくなってから、世間の人にいると言われるのが辛いからだという。使えなくてもまっすぐの方がよいというのだが、どうも可笑しい考え方だと思う。幾ら曲っていなくても使えない指が付いている方が余程愛で自由だろう。もっと日本の里親にならうとする人が、真実の子供の幸福を考えてやる様になり度い。自分の為よりも、子供の為を先きに考える様になりたい。

D、二年六ヶ月。牛込のある家の車庫の中にいたという。ひどい異状神経で、

非常な興奮状態が続き、昼夜三日間泣き通した。推定八ヶ月で来たが、最初の日全然人を寄せ付けず、泣いて飲まないミルクも零れると慌てて手で擱んでミルクを擱むと云うのも可笑しいが、口に押し込むという有様。ビタミンDを受け付けない体質から来たというひどい漏斗胸で、眼ばかり異様に光り全く赤坊という感じがなく、余り何時までも慣れないので、一ヶ月後に医師に相談して睡眠薬を服ませたりした。今ではすっかり可愛くなり、年が多いだけに一番よく何でも分っているし、言葉もよく話す。中々氣むづかしく一度言い出したら絶対にそれを通そうとして、他の事で騙されたりはしない。はじめの食物は決して口にしないが、慣れると何でも食べる。食べる時は最後まで行儀よく零したりしない。欲しいと思つて手に入れた物は、勝手に手放したりしない。

E、一年七ヶ月。一ヶ月の時、新宿のある飲食店に置き去りにされ、其の後母親が現われたが又行方不明になったという。ひどい栄養失調で、かさかさとして皺があり、首が曲つていて坐らず、よく肥つて元氣になつても半年近くまで確りしなかつた。眠る時親指を口から離さなかつたが、まだ食物を吸つて嚙むことをしない。指を吸わなくなつたら頭を打つ様になつたが、Aの様に激しくはない。寝台も動かす。まだよちよち歩きだが、外へ出る時は皆と一緒に階段を下りて行く。

F、一年七ヶ月。推定三ヶ月となつて来たが、後で親が判り本当は八ヶ月だったということになる。新宿のある医院の玄關先で拾われたのだが、頭は三分の一程が腫物で大変な悪臭であつた。厚い瘡蓋を取除いて手当をしたらすぐ治つたが其の後次々と頭の中に出来、今でもよく

眼の縁が汚くなる。人見知りがげしく最近漸く新しい人を見ても泣かなくなつた。食事の時皆が大喜びで食卓につくの、彼女だけは知らぬ顔で呼ばれる迄集つて来ない。そして最後まで悠々黙々と食べている。

G、二年二ヶ月。一年六ヶ月で母親と来る。父親はトルコ人だが、正婚ではない。初めの中は度々母親が訪ねて来たが其の中行方不明となつて了う。中々慣れなかつたが今でも一番やかましく泣く。矢張り偏食だったが、今では何でも食べる。細い様でがっちりしている。便器にかける時何時も一番でないとい氣にいらない。

H、二年一ヶ月。父親が結核で入院、母親が外へ出て働かねばならない為、一年四ヶ月で預けられる。家に年の近い兄と姉がいる。実に明るい子で最初の日から全然泣かない。すぐ皆と一緒になつて

遊んだ。初めの中は度々他に嘔み付いて酷い菌型をつけて困ったが、今は全然しない。来た時はぶよぶよと肥っていたが今は堅くぴちぴちとしている。初めての物でも何でも実によく食べる。

I、四十日で連れられて来た。母親が隠れたり現われたりして、手離すと言ったり自分で育てるといったりするので、折角よい里親に望まれても預けられなくて、この子にとっては、こう云う親のあるのが却って不幸な思いがする。勿論正婚でなく、若い母親は別の男と同居しているという。もうすぐ一年になるという可愛い時で、離乳も早く出来、元気に明るく育っている。

J、二年三ヶ月。両親離婚の為、一年六ヶ月で父親に背負われて来た。家にいる時も他家へ連れて行くと泣いて絶対に入れなかったという話で、抱かれた者だけがみついで離れず、何も食べずに泣き

通し、お茶だけ飲んで寝て了ったが、泣く時は両手や唇を物凄く震わせて、湯呑も持てない程。今では大分よくなり明るくなって、ねついてからも何度も起き上って泣いたのが、此の頃は殆どなくなつた。餌弄りがとても好きだ。偏食がひどく初めはパンも食べなかつたし、漸く食べる様になった物も形が変わると一口も食べないという風だが、慣れれば何でも食べている。

K、一年。離婚の話が決って、この子は母親が引取り、姉の方は父親にといいことになっていたところ、母親が一人で家を出て了ったというので困つた父親が五ヶ月になるKを連れて来た訳。ぐにゃぐにゃとして骨の軟い體質で、高熱が続いた後、膝が伸びなくなつて長いこと通院したりした。一時もじっとしてはず睡眠時間が少く、すぐ痙攣を起して泣く事が多く、何でも一緒にしているIとは正

反対である。近く母親の実家に引取られることになっている。

L、二ヶ月。結婚する意志もなく生れた子を育てる気もない二人から、他人の子となつて四週間目に連れて来られる。三晩泣いて慣れたら夜は全然泣かない。小さいけれど順調に育っている。

この他にいる大きい四人は、屋は階下の保育所で過しているのだが、二人は推定一年で来て、Mは四年八ヶ月、虚弱で極端な偏食をし、昼間はよく寝台の下へ潜り込んで埃を指でなすっては口に入れたり、ペラングの窓の砂埃を舂めたり、石炭を美味そうに食べたりし、夜は中々眠らず何度も眼を覚まして泣いていたが今はこの様な事はない。Nは食べる事には全然世話のかからぬ子で、毎日夕食の準備が始まると調乳室を覗き、何度台から落ちても調乳室の窓から離れなかつたことを思い出す。他の子に比べて言葉が

早かったが、体格も良い。

○は三年四ヶ月、産院で生後三日目に母親から置き去りにされた狼咽の混血児、食べられなくて離乳が遅れたが、食べ方を覚えたら偉大なる食欲の持主となつて大きな体をしている。言葉が判然しないが、何でもすぐ覚えてよく喋る。

P、三年半。神経質で小水が近い。この幼い子等を、いやな病気にかからせぬ様強い体に育て度い。これから夏になると薄着になれて嬉しいが、昼間は殆ど裸で過しても、朝夕の涼しい時や夜寝てから冷えない様に気を付けてやらねばならない。おなかを冷さぬ様、夜は大きな腹巻もしている。入浴行水は毎日の事だけれど、汗の出た時、汚れた時は何度でも拭いてやり、汗疹などが出来ない様にし度い。極く暖い日には、ペランダの日向に出したたらいの水で、裸になって水遊びの出来るのは楽しい。水の好きな

彼等の一番嬉しい事だろう。寝冷の他に一寸した食物への不注意からも下痢など起し易い時だから、特に清潔と新鮮ということに注意し、又ビタミンの消耗の激しい時であるから不足にならない様気をつけよう。又冬への備えにこの夏の間から皮膚を強くしておき度い。薄着の習慣を秋にも続け、冬も厚着にならない様朝夕の着換の時は全部裸にして取換えている。赤坊のおむつを換える時にも背や脚を擦ってやるのがよい。

栄養は充分に与えられ標準以上に育ちながら、ここで育てられていく為に知能が遅れ勝となっている彼等が、一日も早く親の許に引取られ、又理解ある里親に迎えられる様になり度いものと願っている。今までに幾人もの子が幸になって別人かと思う程に変わっていい子に育っている事を心から喜び、今の自分達が少しでも家庭的にこの幼い子等と遇せる様でな

ければならないと考える。

(東京 二葉保育園)

▽おしらせ▽

第四回

保育事業研究大会

期日 八月十日(水) 十一日(木)

十二月(金)

会場 北海道札幌市

札幌市スポーツセンター

第一日 開会式、総会、研究発表会

第二日 部会討議

第三日 研究発表の講評、部会報告、閉

会式

※協議は十五部会に分れて行います。

編集部

劇 あ そ び

海に落ちた麦わら帽子

村 井 ト ミ

◎指導にあたって

(一) 目標について

- ・子供達が興味を持ってこの劇あそびを中心にして、皆で楽しく遊べること。
- ・遊び乍ら自然に言語の使い方が出来る様になること（誤った言葉、乱暴な言葉、下品な言葉の認識や、正しい発音で話すこと等）
- ・セリフのやりとりを考えたり、音楽によって自由に表現したりする事によって創作意欲をもちたてること。
- ・人の前で恥しがらずに発表すること。
- ・人の発表を静かに楽しんで聞くこと。

(二) 取材について

- ・既成の脚本を使う場合。
劇あそびの脚本があっても、それをそのまま幼児に与えず、幼児から考えさせ引き出したものにする事。
 - ・出来上った脚本はどこ迄も適当な助言や刺激を与える為の先生の一つの参考に過ぎない事を念のため付け加えておく。
 - ・或る童話等を元にして、先生と子供達と協力して考え乍ら作っていく場合。
 - ・子供達の日頃の自由遊び、ごっこ遊びの中から材料をとって、劇としてまとめたもの。
 - ・或る題だけを決めて創作していく場合。例えばクリスマスマスの頃に「サンタクロース」という題をきめてつくる等。
- 大体右の四つが考えられると思うが、この「海に落ちた麦わら帽子」は二番目に相当する一例である。

◎指導の実際

いつだったか何年も前に、何かの本で「海に落ちた麦わら帽子」という童話を讀んだ事があった。その時、何と可愛い話だろうと、ほほえましい印象を覚えていた。

七月の或る日、子供達と魚つり遊びの魚を作っている時、ふとこの話を思い出した。そうだ——あの可愛い話を元にして子供達と劇あそびをして遊ぼう。きっと喜ぶに違いない。そう思うと一刻もじっとしてられない。子供達が帰った後、早速圖書をあさってみたが、どの本にもこの童話はのっていない。所々忘れた所があるが、これが又かえって子供達に考えさせるよい機会であると思うと、変な事だが本の無かった事がかえって嬉しくなったりした。

—指導過程—

• 先ず最初に子供達と劇をして遊ぼう

という話し合いをする。今、皆でお魚をつくっているからお魚の劇にしましょうという相談がまとまった。そこで先生が可愛いお魚の話を知っているから、これからしてみましよう。忘れた所もあるから皆で何かいい事を考えて下さいね。と言ってこの話を思い出し乍らした。

• 登場させる魚は、どんなお魚がいいか、皆の好きなものにする事にした。とび魚、まぐろ、鯨まで出たが、結局、鯛、いわし、たこ、いか、しまだいに決まった。面白い事にこれらは魚つりに遊びに製作中の魚の種類だったので一人でおかしくなったりした。

• 配役を決めたりするのは一番後まわしにして出て来る順に従って、皆がどの役にもなつて自由表現をして遊ぶ。(波がよせていれば皆が波になつて踊る。皆がいわしになつて泳いだり、皆が鯛になつて赤ちゃんを寝

かせたりする)

• 先生は、たこなら、たこらしいゆっくりした曲を、又いわしなら速い曲でという様に適當な曲を弾いてあげて、子供達にその感を深める様に心掛ける。音楽の影響の大きい事は今更いうまでもない事だ。

• この様にして遊んでいる中に、自然に言葉が必要になつてくるので、皆で何と言つたらよいか、何と返事をしたらよいか等考えさせる。

• 何度もくり返し遊んでいる中に、先生からも子供達からもだんだんいい想いつきも加つていく。勿論一日で出来る上ではなく、適當な所で打ち切って明日又続きをするという様にする。配役がきまつて不完全乍ら一通り劇の形になるのは少くも四、五日はたつてからになるわけだ。

• 次には自分のなりたい役の時だけ出ている。たこにもなりたいし鯛にもなりたければ、どちらにも出るとい

う様に、一つの役を限定しないで思
う存分に遊ばせる。(一人の役の時
に六人も七人もなっても、かまわな
い)

・はじめて配役の相談をしてどれか一
つの役を選ばせる。出来るだけ自分
の希望の役にさせる。

(五才児の場合には、黒板に魚の絵
をかき、なりたい魚の下に自分の名
前を書いたり、かかせたりするのも
興味を深める一つの様だ)

一人の役に何人もなりたい時は、じ
ゃんけんをしたり、くじを引いたり
して決めるとあまり問題も起らずに
すむ。その代り何回か遊ぶと又役を
交替してする。

・自分の役が一応きまるとお面をつく
らせる。画用紙をあたえて各々の魚
を自由にかかせる。同じい、わしでも
子供によって大きいものや小さいの、
太ったのに細長いもの等出来て、か
えって面白味がある。

・小道具は麦わら帽子、つり竿、岩、
鯛の赤ちゃん、海の背景が必要な
で、利用出来るものは利用してつく
る。

(麦わら帽子は昔、私が畠で使った
物が丁度あったのでそれを使う事
にした。つり竿は竹の棒に紐をつるし
た。岩はボール紙に書き、箱積木の
前につけた。海の背景はボスターカ
ラーで大きい紙に波をかいた。鯛の
赤ちゃんは魚つり用につくった鯛を
使った)

・帽子が海に落ちる所をどうするか考
えたが、結局、糸を帽子につけて置
き、引っぱる事にした。

・又、帽子が何に見えるか、お茶碗、
手さげ等と、子供達の言った通りに
した。

一劇のあらまし

この様にして出来上った劇の骨子を記
してみよう。各々のセリフや、細い点は

「劇あそび脚本集」を参照していただく
事にして、ここでは省略する。

・先ず波になった子供が横に一列に手
をつないで波の曲に合わせて、波の
よせたり返したりする表現をする。

色々の魚達が波の前を泳いで通り過
ぎる。曲が小さくなるにつれて幕の
中へ。

・おじさんが、つり竿をかついで岩の
所へ出て来て魚つりをする。時々竿
を持ち上げたり、又海の中へ投げ込
んだりする。

・おじさんが「なかなかつれないな、
風がひどくなって来た」と言ってい
る中に、幕の蔭から麦わら帽子を引
っぱる。帽子が海に落ちて動いてい
く。おじさんは困ったと言いつら帰
る。

・いwash達が曲にのってスースー泳い
で出て来て、帽子を見つけて何だろ
うとさわぐ。色々帽子に聞くが返事
をしないので、いかのおじさんに聞

きに行く。

• いわし達に呼ばれて、速い曲でいかのおじさん達が次々出て来る。いわし達は、変な物が落ちていた事、何だかわからないので聞きに来た事を話す。

いかは帽子を受け取って覗いたり逆にしてみたりして、お茶碗かもしれないと言ってくれるが、いわし達はお茶碗にしては大き過ぎて変なのでたこの所へ聞きに行く。

• たこのおじさんは、ゆっくりした曲に合わせて手をふり乍ら出てくる。いわし達は又前の様にわけを話して何でしょうと聞く。たこは、えーとえーとと首をかしげたり腕組みしたりして考えるばかりでわからない。• 今度はしまだいの叔母さんの所に行く。しまだいさんは早い曲にのって、ひらひら泳いで出てくる。手さげにしては変だから。物知りのかつおのおじさんに聞いてもらいな

さいと教える。

• かつおのおじさんは、すぐ「ゆりかご」と教える。この中に赤ちゃんを入れて、ゆらゆら動かすのだと言う。いわし達、喜んで感心する。

• 丁度鯛のお母さんに赤ちゃんが生れたのでお祝にあげる事になる。

鯛のお母さんは嬉しそうに赤ちゃんを中に入れて子守唄をうたう。

• 色々の魚達、波達、皆出てきてお祝を言う。

他の課題との関連

この場合は、魚つりの製作から劇あそびに移ったが、反対に劇あそびから海の色々の魚をつくって遊んだり、水族館を計画したりしてもいいし、人形芝居や紙芝居をつくる方に（製作と言語活動）発展していいともいえる。

又観察の面では魚づくし等、海や魚に関する絵本を観たり、遠足等で水族館をみる機会があれば尚よいが、ばく然として知っていた色々の魚に対しての認識を新にする必要がある。大人でさえ、今更考える事も少くないのだから——。

（お茶の水大附属幼稚園）

近刊予告

恩物の理論と実際

文学博士 武政太郎 先生序
玉成幼稚園長 有院扁良 先生著

A5判三三〇頁
予価 四〇〇円
箱入上製本 千三二円

フレイベル先生が創造された恩物について、著者の多年の研究の結果が、平明に説かれている。恩物の研究者、ならびに幼児教育者必読の書！

株式会社
フレイベル館

幼児の劇あそび集

及 川 ふ み

劇あそびは、幼児の表現活動の好ましい私たちの綜合体として楽しく遊ぶということと、多数の幼児たちが、この遊びに同時に参加することが出来るという、二つの大きい長所のある点から、幼稚園や、保育園などで、広くとり入れられている遊びの一つである。

即ち子どもたちが、この遊びによって、しらずしらずの間に、言葉よっての表現活動を、豊かにすることにもなるであろうし、又音楽リズムなどの表現も、自然のうちにおこまれてくる場合もある。又劇あそびの取材や、内容については、自然物の形態や、或は社会的の事象に対しての理解や、認識を誘う機会を見つけることにもなる。又扮装や、背景、小道具その他の面で、幼児たちも絵をか

き、物を作ることもしばしばあって、創作的な表現活動の欲求を満される場合も多い。

又劇あそびは、これに参加する人数が、多いという点では、協力の和とか、個人個人の責任などの重要なことなどを、身近かに体験することによって、幼児の社会性を育てていく点からも、重くみられるわけである。

本園では、以上の観点から、最近実際にこころみだ、劇あそび二十四種をここにまとめることとした。もとより専門的の知識にも乏しく、又その経験にも貧しいものであるが、これ等の劇あそびに参加した幼児たちの興味の深かった事などに力を得て、同志の御批判と御指導を仰ぐこととした。

一、取材について

幼児たちのよるこぶ童話の中からとりあげたもの。(浦島太郎、舌切雀等)

幼児の遊びの生活の中より取材をとりあげたもの。(幼稚園ごっこ、動物園等)

自然や、社会環境の中からとりあげたもの。(花の子ども、おやすみなさい、ひよこのさんぽ等)

体育的な遊びを意図して、つくったもの。

(仲よし等)

行事をとり入れたもの。(クリスマス、おひなさま等)

二、目次について

二十四の目次の配列については、大体季節を考慮しておいた。したがってその難易の点で第一期に配するよりは、第二期、或は第三期におかれる方が適當であるものもある。それは年令により、或はその時の幼児の発達の現状に即して、その言葉のやりとり、その他を調節することにした。

三、配役について

特定の幼児による配役でなく、だれでも、又幼児の希望にもとずき大きく配役の異動交代を本体とする。

四、準備について

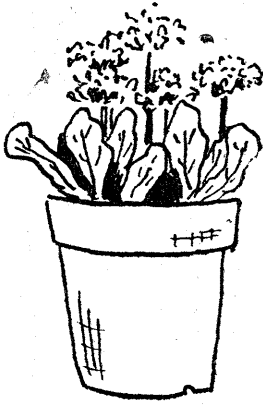
背景、扮装、小道具等、劇あそびの準備のために、多くの時間、多額の出費はさけて、手軽に、この遊びに入るといふことによつて、楽しいふんいきをかもし出すように留意した。

イギリスの幼児教育

(中)

小川正通

N.T.



二、今日の保育学校の生活

(一)

保育学校は、家庭の代用でなく、家庭の延長という考え方を基礎としている。したがって建築様式・遊園・遊戯室の配置や設置などはもちろん、教師と幼児との人間関係も、できるだけそれにふさわしいように注意が払われている。教師は、あるときは賢母のように、あるときは慈母のように幼児を世話するし、また、保育学校の全職員（給食・事務職員を含めて）に率先して、幼児中心に仕事を進めなければならない。保育学校がめざすのは、幼児の発達条件を充足させることであるが、それは家事に忙殺されている母親にとっては、困難である。家庭では、命令や禁止が多くて、子どもの活動的実験を充さないが、保育学校では、すべてが子どもの要求に適合するよう計画されているから、自由かつ安全に子

どもが活動できる環境が整備されているといえる。子どもを保育学校へ出してあげれば家庭の母親は、「静かにしなさい」、「さわりなさんな」、「またそんな質問」などと言をいうことも少なくなり、多忙な時間を子どもに妨げられないですむ。したがって母子関係も良好に保たれる。また保育学校への出席によつて、子どもの社会性が発達するし、地域社会の経験も豊かになるし、五才で幼児学校へ入学するときにも、自信があり、協力的であることができる。

(二)

母親が働いている地区の保育学校の始業は午前七時、終業は午後七時であるが、一般の保育学校では、始業も午前九時前であつて、しかも必ずしも厳格でない。

保育学校の毎日のプログラムは、天気の良い日には、室外で、長時間の自由遊びから開始する。さらに全日、室外で遊び、食事や午睡も室外で行われることがある。そ

して教師の役割は、子どもをできるだけ自由に活動させ、質問に答え、求めに応じて指導と助言をなすことにあるのである。必要な場合には、子どもを保護し、仲裁し、また協力や他人の権利の尊重すべきことも教える。また有用な教具や教材をやたらにこわさぬよう指導するが、他方、これだけでも差支ないものも提供して、子どもの破壊的衝動を満足させもする。さらに子どもの要求にふさわしく、かつその発達を促すに足る種々の遊具・教具・教材などを用いさせる。たとえば、筋肉の発達を促進するもの——わく登り・厚板・ロープ・箱車・ボール・シーソーなど。創造的活動に役立つもの——木片・砂・水・庭園用道具。想像的遊びのための道具——人形とままごとの家・人形に着せる服と小道具・積木・家政用機具（洗ったり・掃除したり・料理したり）など。

十時十五分頃。入室。暖かい日には、手

を洗い、室外のテーブルで、ミルクとおやつ。便所へは行きたいものだけ行く。（午睡のときだけは一せいに行く）職員の一人は、便所に出ばつていて、世話や監督をする。この「しつけ」を重視して、校長と教員が仕事を分担し、若い助手に一任したりしない。それがひるがえって、また助手の教育にもなっている。

おやつがすむと、年長児は、音楽やお話の時間。年少児は、それへの参加を多くに希望するとき以外は、遊びに再び出る。多くの保育学校では、「第二の遊び時間」に種々の作業を行う。それは「第一の遊び時間」と違って、肉体的活動の少ない、描画・粘土細工・構成遊具による遊びなどを行う。希望の幼児は、「第一の遊び時間」のもの継続が許される。

(二)

十一時三十分頃。何人かの子どもが先に手を洗いに行き、昼食用のテーブルをなら

べる。他の子どもは、つぎに手を洗い、食事の用意ができるまで、絵本を見たり、お話を聞いたりして、待っている。昼食はおいしく、品よくしつらえられ、それに肝油と果汁がつく。しかし肝油と果汁は、他の時間に与える学校もある。食事の方法も学校によって同一でないが、一般的傾向としては、自分の食事を自分で処理させ、必要に応じて教師や助手が少し手伝うだけである。食事が終わったら、すんだ子どもから順に手を洗い、歯をみがく。（歯ブラシの使用の当否については、意見が分れていてある学校では、食後になまのニンジンやリソゴの小片を与える）この方法によると、子どもが食事を急がないし、また食事のおそい子が終るのをまつ必要もない。またせると、さわがしくなったり、けんかになりやすい。

ある保育学校では、すべての子どもが昼食後、ベッドをならべ横になる。しかし睡

眠を好まず、ベッドに横になっても無駄な子どもたちのために、静かな作業で代用させる学校もある。いずれにしても、教師から休養・休息を要求される。年長児は、休息時間を短かくしている。そして一般に休息後は、室外で遊び、母親が迎えにくるまでそれを続ける。とくに発音がおくれている子どもには、ミルクと特別の食事を提供する。

(四)

いわゆる学校的な学習は、殆んど全くやらない。遊びがすべての教育の基礎であり遊び即子どもの学習という考え方からである。話すことや言語は、重視しているが、そのための特別な時間は、設けていない。しかし遊びの間や食事や手洗いの場合などに、教師と子どもが種々話合うことを通して、自然にそれは習得されるであろう。作業も、いわゆる学校的なものでなく、自由な作業である。そして教師は、その作業を

見守り、必要に応じて手助けし、子どもが知的にも満足するよう導く。また子どもが教師のお手伝をしたり、他の子どもの手助けをすることは奨励されている。教師は幼児に固定的な習慣を養うよりも、むしろ親愛の情を養うことをめざしている。一日のうち、一定時間、年長児と年少児を互いに遊ばさせる。それによつて、年少児は多くのことを学び、年長児は年少児を手助けする機会をもつからである。しかしつぎのことは、忘れてはならない。すなわち年少児にとっては、静かにしている時間と大人との親密な接触の機会が必要であり、年長児には、一層活潑な遊びと年少児に妨げられてはこまる知的な実験の機会が必要である。ということである。とにかく四才児と二才児とは、心身の発達上、大きな相違があるのであるから、それにふさわしい指導が行われなければならない。

三、現代の幼児学校の生活

(一)

先に述べたように、旧学校的な学習・訓練様式を維持している伝統的な幼児学校もおお残存している。しかし新しい様式のものも、急速に増加して、伝統的なものに対して、次第に影響を及ぼしているのが現状である。新旧両幼児学校のプログラムは、今日なお同一とはいえないが、共通点も亦多い。

近代的な幼児学校の日課も、自由活動の時間で開始される。子どもは種々の計画やアイデアをもつて登校するのであるから、それをすぐ活動にあらわす必要があるし、また静かな仕事につく前には、自由な活動や話合が必要であることが、研究の結果、立証されているからである。ただこの自由活動の時間が、全校一せいにもたれるので一箇所に密集して、互にさまざま合わない

よう注意が肝要である。

子どもの活動形態は、保育学校のそれと同一ではない。幼児学校の子どもの方が、社交的だし、グループも大きく、また仕事も継続的であるからである。したがって製作したものを残しておき、他日それで遊ぶ場所も用意しておく必要がある。一室内に病院・小屋・お店・飛行場・駅などを作り同一のグループが数週間にもわたって、それを遊びに利用することさえ、決して珍らしくない。室外にも小屋を作ると、それを活用して、種々の活動を行う。また絵を描いたり、小道具で模型を造ることも好む。博覧会や遠足のあとには、全クラスが同一のテーマで仕事をやることもあるが、彼等の年令では、一般にグループ・プロジェクトの方が、クラス・プロジェクトよりも多い。六―七才児においては、片付の前に、作業の評価や翌日の計画のために、教師と話し合う時間が必要である。いずれにしても

自由活動の時間は、子どもの言語訓練、思想促進、問題解決などにとつて、大切である。

登校後、ただちに短かい時間、歌・讚美歌・お祈りのために集合させる学校もあるが、多くの幼児学校では自由活動の時間を先にして、それを朝の最後に充てている。

十時十五分頃、片付開始。十時三十五分おやつ。つぎに遊びに出る。十一時頃に五才児は「静かな活動」の時間。すなわち読んだり、書いたり、描いたり、製作したり絵本を見たり、教遊びなど。その間に年長児は読・書・算。ついで「バイブル」(十一時四十分頃)の時間をすませ、昼食に家へ帰る子と、学校で昼食をとる子。

(二)

午後五才児は、静かな仕事かお話し・音楽を聞く休息の時間。休息のために横になつてもよい。つぎに教師が、詩やお話を聞かせ、それから劇遊び・音楽をやるか、自然

観察のため出かける。それらがすむと自由に遊ぶか、すきな製作。年長児の休息は、午後に短時間だけ。そのとき教師は、静かに本を読んだり、音楽を奏でる。ついで再び、読・書・算の時間。それがすむと詩・お話し・自然研究の時間。体操はすべての子どもが、必ず一日一回は運動場か体操室かで行う。しかし朝の自由活動の時間には行わない。

時間表は、固定的でなく、教師の自由裁量がきく。その表示も、たとえば、自由活動・指導活動・鑑賞のような概括的なものである。そして、読・書・算も「活動の時間」のトビックから引出したり、遠足もトビックと結びつけて実施する。読・書・算の系統的学習は、六才までやらないのが普通である。それが研究の結果、正しいときについて、次策に興味をもつよう誘導するにすぎない。お店遊びのときに、「お店が開

「いている」というような揭示を出したりはする。注意すれば、遊びを通して算数の初步的経験を与える機会も充分見出されるであろう。かようにして、六、七才児において、読・算の欲求が生じたときに、その直接指導やドリルを行う。しかも子どもの生活に直結させて。

(三)

形式的模倣的な製作は、行わずに、自由に製作し、また討議や評価を行う。示範も必要なときに限つてなされるにすぎない。

また今日では、会話のレッスンもとくにやらない。子どもお互いの話合やデスカッションや教師と自由に話合ふことが、子どもの言語能力を自然にたかめるからである。ただ子どもの要求に応じて、教師が新しい言葉と表現の指導を行う。かくして新しい幼児学校は、非常に朗らかにになり、子どもも社交的になった。読方は、子どもたちが作った大きな本から進めて行く。文字指導は

簡単な書付か絵の下に何か書くことから入つて行く。それがやがて子どもの絵日記や本になる。また読むこと・書くこと・話すことの関連を重視している。さらに読方は文章と語から入つて、つぎに発音と綴りを文字指導も、文章と語を書くことからはじめる。自然に関する活動も、旧幼児学校と違って、庭いじり・動植物の飼育栽培・見学などを盛に行い、天候などの観察記録も作る。生物に対する興味は、保育学校以来続いている。

(四)

かように新しい幼児学校は、社会の要求と子どもの発達の要求に応じて、保育学校の基礎の上に、教育活動を継続する。しかしなお幼児学校の建物は、前時代の遺物の観を呈しているものが少なくない。そして遊園や便所や手洗も、必ずしも幼児向きにできていない。便所が屢々建物の外にありまた便所の指導監督のための婦人の助手も

いない。保育学校を経由しない子どものためには、助手が必要であるのに。さらに給食用の設備も、充分でない。調理室が離れていて、食事を運搬しなければならぬ場合も多い。教師たちは気持のよい食事環境をつくるよう努力してはいるけれども。

また一組の幼児数が過多である。現在の教職員に一人プラスさえしても、子どもの肉体的保護と学習的指導に役立つであろう。とくに進度のおくれている子どもを救うことができる。現行規定では、文字指導の時間で、一学級四十人となっているが教員不足のため、実際はそれ以上の人数となっている。三、四才児の保育学校では、一組三十人、担任教員の他に助手、二才児のときは十五人、教員一、助手一、さらに応援の助手も用意されている。幼児学校の一組の子ども数をどうしても減らさねばならない。保育学校・幼児学校ともに、両親の会があるが、幼児学校では、子どもの数

が多いので、親密な会をもちにくい。教師はもちろん、努力して、和気あいあいなふん囲をつくるよう努力を払い、ある程度は成功しているが。

(四)

進歩的な教員は、かような悪条件のうちにも、新しい指導法を研究実践している。それによつて設備も改善され、他の幼児学校とも好影響を及ぼしている。教員を中心に教頭・校長さらに国の視学官も協力して自由な実績を行っている。官庁は常にサジェッションの形でアドバイスしている。

地方教育長も、幼児学校の設備の改善・充実に深い関心をもち、ために美しい新建築も次第に進捗している。地方指導主事や教員養成大学の教官も、教育方法の研究に協力してくれる。大学の実習生も、それに協力し、実習生はまた研究上の利益を学校からうけている。

要するに幼児学校は、理論上も実際上も

多様であるが、全体としては、今日イギリスの教育上における尊敬に値する地位を占めるに至つた。その発達上において保育学校とくらべると、多くの不利益な点もある

が、保育学校の長所をも採用し、幼児学校は前進している。そして七才—十一才児の下級学校の教育に対して、すでによい影響を与えつつあるのである。

第23回夏期保育講習

講師及科目

講演	前文部大臣	安藤 正純
仏教保育のあり方	本部長	椎尾 三井
幼児教育の進み	都立大学	内山 憲
保育解説	聖徳保育学校	鈴木 久
保育の実際	都立保母学院	山本 洋子
イギリスより帰りに	医学博士	長谷川 和
製作	宝仙短大	高橋 琢
仏教童話と人形劇	京都児童芸術研究所	賀来 本多
実用保育リズム	宝仙短大	
伴奏並音楽指導	理事・作曲家	

日時 自七月二十一日(木)至七月二十三日(土)
午前八時—午後四時

会場 東京都中野区宮前町 宝仙学園講堂
国電高円寺 都電本町三丁目 都バス宝仙寺前

会費 400円(当日受付・受理後返戻せず)

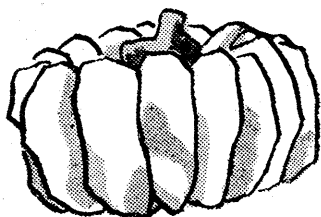
宿泊 希望者申込順により近隣宿舍鞆旋(おそい方は少し遠くなります) 一日350円 主食一日三食五合宛

申込 本協会あてハガキにて住所、氏名、園名記入但し受付の返信はしません

東京都港区芝公園二明徳幼稚園内

日本仏教保育協会

電話(芝)四三三七番



夏期保育計画

木村時枝

N.T.

(→) 夏休み期間。七月二十日より九月四日迄

(⇒) 登園日。八月一日、二日、十一日、十二日、二十一日、二十二日、三十一日、九月一日。

一日、九月一日。

(⇒) 早朝保育。七月二十日より一週間実施。

一、場所。森林、川辺、木影のある

広場、草原。

一、登園時間。七時集合。

一、園児携帶品。洗面道具。

一、先生携帶品。(イ)空缶にえをつけた

もの。(ロ)石鹼。(ハ)竹。(ニ)サイフォン

用ゴムホース。(ホ)古葉書。(ヘ)麦

わら。(ト)透明ガラス数個

当園は、商店街の真中に在るが、幸い山に近く自然に恵まれているので、清らかなかけいの水で洗面をさせて、新鮮な空気のもとで色々と遊びを展開させる。

①水を利用した種々の遊びを経験させる

②水遊びの正しい態度を養う

③水の有難たさをわからせる

④夏の遊びとして簡単な理科的な遊びを経験させる

(イ)手拭い、ハンカチの洗濯、(ロ)シャボン玉、(ハ)笹舟、(ニ)古葉書を利用した舟

(ホ)水絵を土の上に描いて遊ぶ、(ヘ)水鉄砲、(ト)水車、(チ)サイフォン

⑤採集、観察の面

(イ)草花は、自然物遊びの製作や葉っぱ

の形並べ等の遊び。(ロ)昆虫類は、網か

この用意をして、園に持ち帰り飼育さ

せる。(ハ)草花は、又色々と色水を作り

ごっこ遊びをする。(ニ)夏の野菜、果物

は、なぞなぞ遊びで第三までヒントを

与えて、遊びを展開させ、後又観察さ

せる。(ホ)蝶、蟻の巣を見つけ、持ち帰

りガラスびんで飼う。(ヘ)音あて遊びは

色々な場所に行った時、種々音を聞か

せ、音あそびを発展させる。

(例)水の音の聞える時等、音をきき

ながらどんな水の音が好きですか等と

問う。又表現させる。・水道から出る

音・汲む音・む時の音・洗濯する時

音・汲む音・む時の音・洗濯する時

の音・やかんの湯の沸く音・雨だれの音・谷川の音・滝の音・波の音。

⑥ 鬼ごっこ遊び

⑦ ボール投げ

⑧ 汽車ごっこ

⑨ ままごとあそび

⑩ 木影でのお話、紙芝居、しりとり遊び等を約一時間半位遊ばせて帰園。母の会員(当番制)の作った朝食に空腹を満たし、その日の状況によりお絵描。粘土等をさせ、直射日光のあたらないうちに十一時頃帰宅させる。

良い面

① 早起きの習慣がつく(家庭より報告)

② 遠方の園児も皆喜んで参加出来た。

③ 健康的な面から朝の山の空気が子供達に非常に爽快に感じられた。

④ 毎週園外保育を行う為幼児が行く場所に依り態度が出来て遊びが発展する。

⑤ 情緒方面から見て早起きしたと云う優越感を持ち、道を通る人に誰彼なく挨拶をかます。

⑥ 食欲も日常より良好との家庭よりの連絡があった。

悪い面

① お母様方のお手伝いが家庭との時間と同時間のため迷惑をかけた事。

② 登園時間が遅れると食事全体が遅くなり子供達にひもじさを感じさせたこと改良点として本年度は朝食は各自弁当にして持参する様に計画する。

(四) 登園日の在り方

① 夏休み健康表、生活表を持参。

② 登園順に各組の小鳥、草花(特に朝顔)の様子を見せ、変化、愛護、手入れ、観察を先生と共に行う。

③ 毎週土曜に行っている組解体保育で(環境を整えて)子供達を自由に遊びに入らせる。特に夏期は水遊びの場、木影の場を利用した施設を整えておく

(四) 一応当園で行っている組解体保育をおしらせする。

① 動機 本園は数年前より一斉、並に組内解体のみの保育に各組の部室の広さ等から疑問を感じ幼児は幼児なりに自主性を尊重しなければならぬと云う立場から良い生活の型態(保育型態)と取組んで来ました。先ず単元を味味して見学、観察、並に健康増進のための園外保育を実施して、経験を豊かにして保育の流れを誘導する。各組には一応の生活環境の場(ままごと、輪なげ、積木、人形、指人形、季節の動植物の飼育栽培、絵画、粘土)設備を作って置き、いつでも使用出来る様にして置く。指導型態は単元を取り入れた環境設備をして組内グループ指導を行い、その他保育の流れにより自由画製作、スクラップ等をする。この場合子供の生活経験から生れた創意を基にして誘導を行い、自由に表現をさせている。グループ指導の時、地域、社会、施設、園児教及び保育室の広さ等の関係により、組内グループ指導では各グループに於て、子供の欲求する程発展させる事



も誘導すると云う事にも困難点があった為、全部の子供が満足出来る様にするのはどの様な型態が良いかを探求した結果毎日行う事は幼児は未だ心身共に未分化であるため、毎日好きな室で、遊びを自分で選ばせると云う事は、段階として無理であり、又躰の面等もルーズになり勝ちである。又その遊びを遊んだ場合、その遊びの場丈でなく、総ての場を整えて置かねばならない。又各組の交流の場を増す事も組内丈の欠点を補える事になると考え、週に二度行つて研究した結果、週に一度行う事が適当と思われるので実施している。

② 解体保育時保育室の環境

(イ) 園庭 遊動円木。ブランコ：八ヶ。ジャングル：一ヶ。スベリ台：二ヶ。太鼓橋：一ヶ。砂場：六坪。砂場遊具：五十個。雲梯：一。シート：二。電車：一。以上の外花壇：三。泉水、田圃あり。
(ロ) 遊戯室。ピアノ：一。電着。テープレ

コーク。大積木：二組。(イ) 製作室。色紙各種。画用紙。クレヨン。ヒゴ。ハサミ。古箱。マツチ。タバコ。キャラメル。の空箱。包紙。ヒモ。(ロ) 木工室。ノコギリ：十ヶ。カナヅチ：十ヶ。キリ：五ヶ。木切れ：若干。針金：若干。釘：若干。ねじまわし：三ヶ。色紙各種。えのぐ。筆。(イ) 粘土室。貯蔵していたどろ粘土を各自に自由に与える。ヒゴ。粘土板。粘土ペラ。色紙各種。草花葉。単元を最大限に発展出来る様に諸準備をして置く。(ロ) 打楽器室。打楽器一揃。疑音器。(イ) 絵画室。模造紙四分一の大きさの紙。イーゼル：十六台。えのぐ。筆。クレヨン、画用紙。作品展覧針金。(イ) ままごと遊び、砂場、園庭：(屋外、木陰利用) ママゴト道具一式：五組。ゴザ：十枚。人形遊びの道具。(ロ) 水遊びの場：早朝保育で経験した色々の遊びの場を作つておく。ジョウロ。水汲みバケツ：数十個。泉水、噴水。

③ 誘導法

(イ) 先生が各部屋での計画を、意図的にならない様に、出来る丈子供が発達段階、経験から生れた自発性、創造性を伸ばす様に整備誘導する。特に夏期は、子供の心身にふたんのかからない様気をつける。(ロ) 特に解体保育は、環境の設備に重点を置き、季節の自然物や、地域社会の行事等も取り入れた遊びに、子供自身から入り度くなる様に用意して置く。(イ) 教師は同一単元の続く期間中、担当グループは同じ処で指導。

④ 評価

(イ) 幼児の解体保育に対する関心調査

	すき	どちらもすき	嫌い
年少	75%	25%	なし
年長	90%	10%	なし

(ロ) 全園児を通じて社会性が大変豊かになった。年少児を可愛がる面が多分に見られる様になった。(イ) 喜んで自分の好き

な遊びに自主的に入り、伸び伸びと展開して行く事が出来た。(二) 解体保育の日は、特に自分で何かをしようとする意欲を持って期待している。週に一度であるため、今の欠点は見受けられないが、解体保育時の目標は、特に先生が意図的にならない様、自由保育を主体にし、幼児の自発性をうまく誘導する能力が教師に必要となる。

夏休みは子供が心身共に疲れ易い時期なので、朝の涼しいうちに園で適当な環境の中で、幼児が最も喜んで遊ぶ遊びを展開させる事が、一番幼児の夏期保育として適切と考え、本年度より実施する。

(六) 家庭での生活指導、並に種々の遊びの環境設定等は、母の会を開き、プリントと共に詳しく説明をして指導する。

(七) プリント内容は紙面の関係上簡易なみにして一部おしらせする。

① 夏休み期間 登園日の知らせ。

② お母様方による幼児用おくるみ、指人

形製作の件

③ 大掃除(母の会員による園の掃除)

④ 一学期園でつけた駄をこわさない様にお母様方の家庭での協力の方法を具体的にしらせる。

⑤ 夏期健康表、生活表のつけ方の説明。

⑥ 保健衛生上の詳しい説明。

⑦ 絵日記について。

⑧ 子供達の動植物の採集のお母様方へのりあげ方について。

⑨ 夏休みがおわってからの展覧会について。

⑩ 理科的あそび、製作、科学的あそび、いろいろのあそびの場の作り方を紹介。

⑪ 夏の自然物の観察のさせ方。

⑫ 童話のいろいろの紹介等を行う。

(福岡県 双葉幼稚園)

☆幼児教育界におくる

倉橋惣三先生の二著

幼稚園真諦

B 六判一四六頁 定価一八〇円

子供讃歌

B 六判二三四頁 定価二六〇円

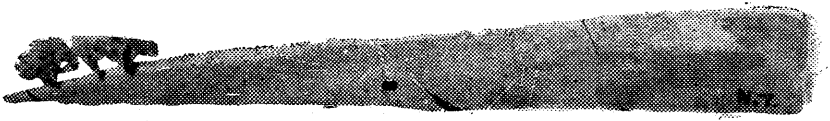
倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された幼児保育の真のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、幼児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童観を、会得していただきたいと思ひます。

株式会社 フレーベル館

地域社会における幼児の特性と保育

— 繁華街と集団住宅地とを比較して —

友 田 静 恵



「社会環境と生活指導等について」これは文部省主催第一回幼稚園教育研究集会、東京会場、第四班に与えられた研究主題であるが、いつの時代にも社会環境と生活指導という問題は、切つても切れない相関関係にある。

元来、教育の計画をたてるのに、教師の頭の中にある、或る一つの理想像と、地域社会の要求とを考慮して、たてるのであるが、とすれば地域の中にある幼児の実態よりも浮き上つた計画になり、実際にはそぐわないプランになりがちである。

幼稚園の教育目標を達成する為には、実際に即した幼児の生活全般に亘つて、綿密な計画をたてる必要がある、この計画をたてるにあつては、地域各々の社会概況と、幼児の実態並に父兄の要求により、教育の計画をたてる事が望ましい。

そこで私達は先づ何よりも考えなければならぬ事は、地域社会の動態、文化、生活習慣、地域にみられる教育上好ましくない状態を、どのように受け止めるか、教育上有利な点はどのようにして幼稚園では効果的に利用するか、地域にある文化財の活用はどのようにしたらよいか等々、それぞれの実態調査を基盤として、保育の方向が決められなければならない。次に東京都の繁華街にある新宿幼稚園と集団住宅地域にある、牛込仲之幼稚園の実態について比較して述べてみよう。

◎新宿幼稚園

〈地域の特 性〉

繁華街!! 新宿は、国鉄新宿駅を基幹として、都電、小田急、京

王帝都、西武電鉄と公、私鉄の発着駅が集中し、朝夕のラッシュ時には、東京駅につぐ人の波がみられる。

新宿駅を中心として、西口商店街と東口商店街があり、前者は主として、衣類、雑貨の新興商店街と飲食店、パチンコ遊戯場が多く後者はグリーンベルト（街の美観を作る為道路の中央が細長い花壇になっている）を中心に、西側に銀座をしのぼせる、高級専門店と三越、伊勢丹の各デパートがあり、更にこの外側に映画街と飲食店パチンコ店、特飲街がある。グリーンベルト商店街のつきたところに、緑の自然公園、新宿御苑が繁華街のオアシスの役割を果し、都電の線路添いに、新宿区役所、銀行、会社とビジネスセンターが、伊勢丹の裏側、四谷三光町の交差点に花園神社があり（神社の境内に浮浪者もいる）垣根を隔てて、新宿区立四谷第五小学校に併設の新宿幼稚園がある。夜ともなれば街はネオンに彩どられ、街頭には夜の淑女？ が客を引き、パチンコの賞品買いや街の顔役が現われるという、文字通り社会の縮図である。

このような繁華街に幼児達は生活し、最新の文化？に接し、たえず強い刺激を受け、騒音の中に成長しつゝあるのである。

次に研究集会の資料として、同園より提出されたものに基き、その実態と保育の方向についてのべてみよう。

《幼児教育上環境的に良い点》

1、新宿御苑が近くにあり、徒歩にていけること。自然に恵まれないこの地域においては、自然物に接するには最適の地で、園外保育に度々出かけられる。

2、新宿駅に近いので、汽車、省線、郊外電車、自動車等乗り物に対する観察が自然におこなわれ、科学的なものへの関心が高められる。

3、良い映画が常設館にかかったらすぐに見られる。

4、デパートの屋上にある子供の遊戯場には、いろいろの遊具が完備され、降園後利用して遊べる。

5、文化的な施設が多い為、子供の常識が普通よりも発達している。

《幼児教育上環境的に困る点》

1、交通が頻繁で通園に危険である。校門前は電車道路で、自動車や電車がひっきりなしに通る。

2、大部分の家庭は商業を営み、住宅地と異り、夜遅くまで営業しているので、子供も夜更しがちになる。

3、公園や遊園地、家庭での遊び場が無い為、道路上で遊ぶようになる。

4、花園神社の浮浪者が園庭に塵や汚物を投げ込むことがあり困惑している。

5、特飲街が近くにあるので、夕刻ともなれば接客婦の好ましくない情景などが目に入る。

6、幼児には好ましくない映画が映画館にかゝり、これらの看板が目に入る。

7、ストリップ劇場の看板が目に入り、刺戟が強すぎる。

8、街の空気が悪く、街中が常にごったがえしている。

9、ヘリコプターで宣伝用のピラがまかれ、これを拾いにとび出し、危険である。

10 商業主義的な玩具や刺戟の強い読物が店頭に飾られ、子供の購売欲をそとる。

11、街全体の色彩が華美で刺戟が強く、落付いた気分になれない。

12、ジャズや広告宣伝放送が街のあちこちから流れ、終日喧騒である。

13、家庭が夜遅い職業の為、朝寝坊が多い。

《地域社会の指導について》

前述のように、商業を営む家庭が多い為、子供と一緒に食事をしたり、遊んだりということが少いので、その為幼児の基礎的な生活習慣を身につけてやるべき、この時期に十分な躰が行われていない状態であるから、特にこの点を父兄に話し、入園前の懇談会、PTAの教養部会等を通じて、園の保育方針と、幼児期の教育の重要なことを認識させるのに努めて来たが、何しろ職業と場所柄、一家の主人が家をあげるということに、大変な努力を要するので、この点幼稚園の方でも、時間と会の内容、主旨などを考慮して、父兄が出やすいように計画し、幼稚園と父兄が一体となつて、環境から来る教育上マイナスになる点の排除に努めた結果、徐々にプラスしつゝ、教育の目標に向つて歩みを続けている現状である。

《PTAの会の持ち方としては》

1、割合に商売の暇な時間、午後二時―三時に持つ。時間は特に厳守する。

2、平常着のまゝで出席する。

3、欠席者の為には会の要項を印刷にして渡す。

4、会の内容は十分に検討して、父兄に分りやすく、しかも出席してよかつたと感じさせるもの。

《保育の方向》

1、幼児の家庭は土一升金一升ともたえられないような土地にあるため、各建物と建物の間隔は一寸の隙もないといった状態で、家庭には遊び場が少く、自然物に接する機会もないので、幼稚園では園庭に池を作りその囲りには芝生を植え、庭の隅には雑草園も作り、小鳥小舎はか成りの飼育費と経費をかけて一間半平方の小舎を完備し、カナリヤ、十姉妹を飼い、鶏舎、兎舎には幼児が自由に入つて餌の世話や兎を抱いて遊べるようにし、室内にも金魚や亀を飼い、四季それぞれの景物を準備し、幼児をとりまく生活すべてが、自然の中にあるように工夫し、街の騒音や度を過ぎる刺戟より護り、幼児本来の、天真爛漫な生活を営ませるように仕向けている。

2、街から流れるジャズ狂躁曲はシャットアウトするように、たえずよい音楽を流し、楽しい雰囲気を作るように心を配る。

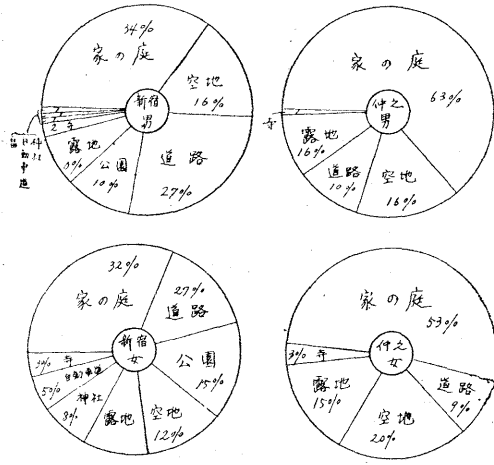
3、文化指導については、特に幼児の興味を正しく伸すよう周到な計画をたて、今幼児達は街でどのような文化に接しているかを調査し、いきなり教育的匂いの強いものをぶつつけることなく、幼児の夢や空想を育て、その想像の世界の底に教育的な意同をしるのばせ

つゝ、幼児が自然にこれらのものを吸収するように仕向ける。

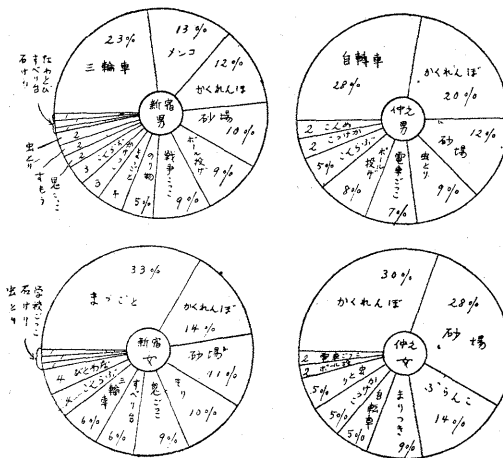
街のあちこちでは街頭紙芝居の、刺戟の強い色彩のどぎつい、スリルに富んだ探偵物や冒険物が幼児たちの興味を嫌が上にも刺戟し素直な鑑賞眼をゆがめているので、こうした面から、正常な興味へ引き戻すべく、幼稚園では幼児の感情生活を整理するように、出来るだけ色彩の美しい画面の明るい鮮明なものを選び、又幼児と共に自作し、年令の発達と共に内容も高めていくように指導している。

人形劇は著名な人形劇団を招いて上演したり、学校の子供会の、ものをみせたり、又自分たちで演じたりして、創作的な美しい心情

家の外ではどこで遊ぶか



屋外では何をして遊んでいるか

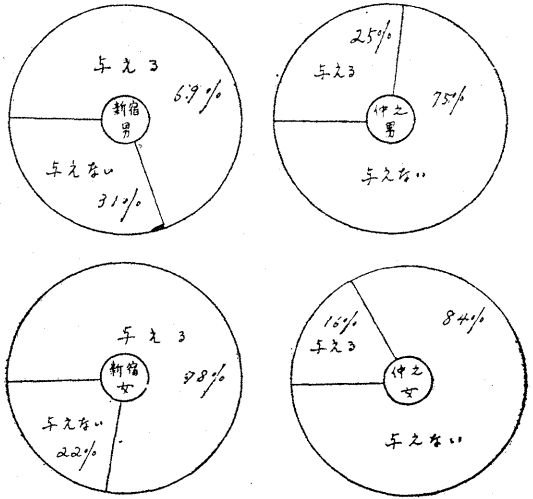


を育てるように心がけている。

ラジオは子供に与える影響を考えて、幼児の好むものばかりでなく、教育的に価値のあるもの、特に木園では母屋である、四谷第五小学校の完備した放送室より流れて来る校内放送を聴かせたりしている。これは校内のものだけに特に幼児は興味をもつてきいているようである、(註 四谷第五小学校の校内放送施設は校長兼任園長が全国学校放送協議会の会長であるだけに、都内でも有数な設備を誇るものである)

4、室内の環境設定としては幼児の遊びが豊かになるように、教

おこづかいを与える。

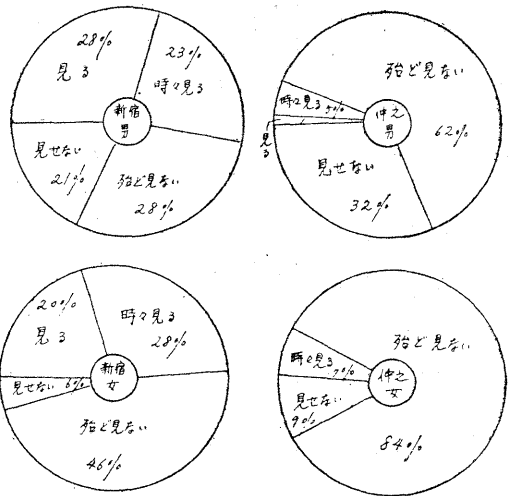


材、製作の素材などを豊富に準備し、自発的な作業が楽しく出来るように心を配り、室内の装飾などは、街の騒音や色彩から来る刺激を出来るだけ避けるように、簡素で清潔にということをもットとしてゐる。

◎ 牛込仲之幼稚園

《地域の特性》

この地域は戦前屋敷町と称せられ、旧華族や陸軍の将官等、上流



階級と呼ばれた人達の住んでいた仲之町と一般住宅の河田町、寺院の多い薬王寺町とで、環境としては比較的恵まれた場所、新宿へ十五分、丸の内のビジネスセンターへバスで二十五分という足場の便利な町でもある。

仲之町の屋敷町は戦災を受け、現在昔の面影をとどめているのは旧徳川侯爵邸の河田町会館だけで、あとはすっかり面目一新、銀行の寮や社宅（日本興業銀行、三和銀行、第一銀行、東京生命、朝日生命）公務員住宅、都営住宅、住宅営団の鉄筋四階建アパートがあり、近くには駐留軍司令部、東京女子医科大学、同附属病院、成城高等

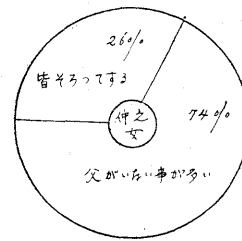
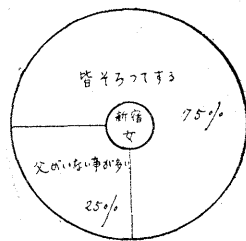
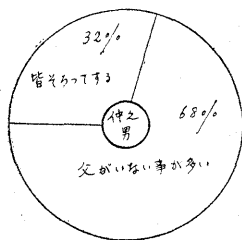
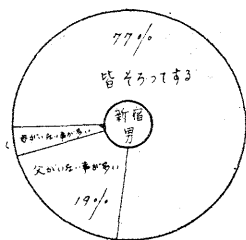
学校等がある。

幼稚園の前の道路は自動車の交通も激しいが、夜はひっそりと静かて、住宅街としては最適のところである。

《幼児教育上環境の良い点》

1、近くに神社、寺院、草原、公園等があり、自然観察や虫取り遊びが出来る。新宿御苑に徒歩で、二十五分かゝると行けるので園外保育の場所に恵まれている。

2、新宿に近いので休日や降園後父兄同伴で、デパートや子供向



きの映画を見にいける。

3、豊島園へも直通バスで行けるから、休日にはこれらの文化施設の利用が出来る。

父兄は九〇%が勤め人であるから、規則的な日常生活を営んでおり、日曜日は子供デーで一家揃って郊外に出かけたり、母親が教育に熱心で子供の面倒をよくみる。

4、PTAには半数以上の出席があり、学級別保育参観の折は九〇%の出席率で、子供の教育について熱心な討議が行われる。

《幼児教育上環境的に困る点》

1、父親が勤め先の都合で、夕食時に家庭にいない事が多い。

2、集団住宅が多い為、子供の遊び場が共同で、割合に狭く、大きい子供達に占領され、十分に遊べない。又大きい子供の影響を受け、西部劇、チャンバラごっこ等の好ましくない遊びをする。

3、子供の喧嘩が親同志の感情問題にまで発展する事がある。特に同じ職場である関係上、一般のアパート等の場合と異なる問題を持ち越しがちである。

4、駐留軍本部のヘリコプターが、日中絶えず飛びその騒音が、保育の妨げになる。

5、親同志が暗黙のうちに、我子の成績や成長、衣服、玩具、持ち物等を競う傾向がある。

7、文字通りの寄り合い世帯で個人主義的な、傾向が強く、我が子、我家の幸福という事には関心の度が強いが、地域全体とか、学校全体ということになると関心が薄い。

8、幼稚園や学校の問題について、熱心に協議はするが、物質的な面の協力という事は問題を残しがちである。

《地域社会の指導について》

勤め人が多い為両親の教養の程度も高く、幼児教育についても深い関心と、認識を持つているが、集団住宅の住人心理とて面白いおうか、我子さえ良ければという狭い気持が強く出て、生活習慣や病気の予防、保健衛生の面で、他の幼児の幸福を忘れ勝ちである。

こうした我子だけという狭い視野から脱皮して、広く幼児教育を理解し、多くの幼児の福祉の為に、一人々々の親達が、民主主義の精神に立脚して、相協力し、家の太郎も隣の花子も、みんながよい子になるように、助け合つていくように、地域別懇談会や月例の保育参観、PTAの教養部会を通じて指導している。

特に両親の平均年齢(三十二才)が若いので長子、次子が多く、終戦後に親になった人達で、終戦後、にわかには解放された、自由主義、個人主義の立場から、履き違えた自由主義教育の方針で、子供を養育して来たこと、転勤、転居等の為、基礎的な生活の良習慣が身につけていないから、躰の面では特に留意し、保育参観の折りには、特に集団の中の我子の行動や位置を見てもらい、この中から問題をみつめて、子供の実態を中心に保育向上の為の座談会を持つている。

座長も父兄の中から適当な人を順番に決めて、会を和やかに進めていくようにしている。この座談会の中において、日頃家庭で困る問題、家庭での幼児の生活とを結びつけて、幼稚園生活と家庭生活

が直結していくように、父兄と教師が常に密接に連絡を取り、協力一致して指導している。

又父親の外食時の不在という事も、幼児教育上大きな問題を持つているので、学芸会、運動会などの行事を通して協力を求め、両親揃つての教育にこそ、より教育の効果のある事を認識してもらおうにしている。

尚父親の会というのも計画して、出席出来る可能性のあるグループを作り、月に一度土曜日の午后に日を定めて、幼児を中心にした会を持つようPTAの、委員会で話合っている。

《PTAの会の持ち方としては》

1、月例の会は毎月廿日前後、午前十時より十一時まで保育参観十一時より十二時まで保育座談会。

2、教養部会は二ヶ月に一度、この道の権威者、専門家に講演を依頼している。

3、園で徹底したいと思う躰や教育事項については、簡単なパンフレットにして渡し、保育計画については、入園当初に「本年の保育計画」として一年間の計画を、細部に亘つては週報を印刷して毎週連絡している。

次に週報の一例を挙げてみよう

家庭ではこのプログラムによつて、幼児の幼稚園での生活を知り例えば、ラジオ聴取の時間になると、母の朝の仕事を手早く済ませラジオをきき、自分の子供がどれだけ、ラジオの内容を把握したか

夕食後の団ランの話材にし、聴覚による理解の度を評価したり、知識の補足をしたりしている。又その日が園外保育の日であれば、幼児の身体の調子を丹念に観察したり、持ち物や服装、特に履物等に気を配ったりしているようである。

このようにして一枚の週報をつながりとして、幼児を中心に、家庭より、幼稚園へ、幼稚園より家庭へと幼児の生活の流れがよどみなく流れるしくみになつてゐる。

《保育の方向》

家庭は集団住宅が多く、子供の数と比例して遊び場が狭く、幼児はいつも狭い枠内での遊びを余儀無くされている。こうした点に幼児の社会性の正しい成長を阻害する原因も生れて来ると思われるので、幼稚園では広い遊びの場と、自由に使える遊具や玩具を十分に用意し、子供が自発的な意志にもとづいて生き生きと遊びが發展しグループの遊びが、共同の目的のもとに、秩序正しく行われるようにし、民主社会のよき一員として成長していくように指導している。

又激しい活動の後には床に草蓆を敷いて、横になつて休息をとらせ夏は昼食後一時間の昼寝をさせるなどして、健康に注意すると共に正しい食生活をするように、副食しらべをして、出来るだけ調和のとれた栄養をとらせるように、家庭と連絡をとつてゐる。

特にこうした集団住宅に生活している幼児に取つては友達との協調、融和という事が先づ何より大切であるから、お互の生活や行動が公明であるように、廻りの大人達が注意し、範を示すように仕向け、一寸した自分の不快な感情も抑制出来るように導き、何の屈託

もなく楽しい生活が営めるようにする事が望ましい。

以上述べた事は極めて普遍的な事柄で、何処の園でも考えられている平凡なことであるが、本園では特に集団住宅に住いを持つてゐる幼児達であるから、この点を強調して保育の歩を進めている。

《結 び》

このように同じ新宿区内にあつても、地域的な環境や人間的環境の差によつて、幼児の生活している場が違つて来るので、こうした場から来るいろいろな問題を分析し、それがどのような原因から起るものか、又教育の上にとどのような影響を及ぼしているか、子供の実態調査をして、その上に立つて教育の方向づけをし、教育が地域社会より浮き上つたものでなく、その土地に根をおろし、枝をはつていくようにしなくてはならない。

(東京・牛込仲之幼稚園)

お茶の水女子大学主催

幼稚園教員免許法認定講習會

○期 日 七月二十一日より七月三十一日

○会場 お茶の水女子大学

○実費 申し受けることがあります。

○科目・単位・講師

教職科目 保育内容(A)一単位(七月二十一日より二十五日)

(社会) 水原 泰介講師

(カ) 津守 真講師

教職科目 保育内容(B)一単位(七月二十七日より三十一日)

(保健) 平井 信義講師

(社会) 松村 康平講師

○受講資格 幼稚園教員普通免許状所有者(臨・仮・二級)

○申込 会費と共に左記宛に七月十五日までにお申込下さい。

定員の都合によりおことわりすることもあります。

文京区大塚町三五 お茶の水女子大学附属幼稚園内

認定講習会係

日本幼稚園協会主催 保育講習會

◎創造性をひきたす簡単なりズム

講師 戸倉 ハル 氏

○期 日 七月二十一日より二十五日午後一時より四時

○会場 お茶の水女子大学講堂・体育館

○実費 三百円 当日払込のこと

○申込 七月十五日までに「はがき」にて附属幼稚園内講習

会係へお申込下さい。

○注意 運動に適する服装のこと

◎製

作 講師 及川 ふみ 氏

○期 日 七月二十七日より二十九日午後一時より四時

○会場 お茶の水女子大学講堂

○実費 二百円 当日払込のこと

○申込 七月十五日までに附属幼稚園内講習会係へお申込下さい。

○注意 製作用具(はさみ、クレヨン、ものさしなど)を御持参下さい。

文京区大塚町三五 お茶の水女子大学附属幼稚園内

保育講習会係

保育者のなやみ

舟 木 哲 朗



幼稚園という、常識的には今まで女だけの職場と考えられていたところへ、昨年四月に飛込んでみた。これは、単なる好奇心からではない。幼児は、家庭では父母の下にいるのに、又、男女混合の社会に住んでいるのに、幼稚園だけが男の教師がいないという理由はない。否、男の教師が少しはいることが必要である。ソプラノばかりでなく、バスも聞きながら成長することが必要だ。将来は、幼稚園へ男の教師がどんどん進出すべきだ、というのがその大きい理由。更にもう一つは私自身の問題で、過去、小学校や中学校の教育に従事して来たが、教育の本質をつきつめようと思えば、

どうしても幼児期の教育にまでさかのぼって考える必要がある。しかもそれは、実際にやってみないことにはわからない。本を讀んでみたところで、到底ほんとのことはわからないものだ。このような二つの理由が私を幼稚園へ飛込ませる動機となったのであるが、過去一年をふりかえり、幼児教育のあり方を考える時、一体これでよいのだろうかと考えさせられることがたくさんある。ここでは、その考えさせられることの一つを取上げ、先生方の御意見をうかがったり御指導を仰いだりしたいと考えてペンを走らせることにした。

幼児子の教育を親から期待されて、私た

ちは、とにかく子どもたちを相手に毎日を過ごしている。いっしょにおにごっこをしてやったり、絵を描かせたり、歌わせたり……理くつ抜きにしてそれがとりもなおさず、幼児の成長発達を助長しているのだと言いつつ、果してこれであろうか。何も幼稚園へ来なくても、子どもは結構成長発達する。幼稚園へ出ない子どもに比べて、たしかに成長発達の度が高いというのでなければ、私たちの仕事はおよそ意味のないことになってしまうのだ。又、たとえ幼稚園時代に、幼稚園へ出ない子どもよりすぐれているように見えても、小学校入学当初気が利いてし

っかりしているように見えても、結局それが一時的な効果に過ぎないのなら、又幼稚園を出たために却って学習態度に望ましくない習慣をつけたとしたら、子どもが幼稚園教育を受けてしっかりして来たなどと、うぬぼれていられなくなる。現にあちこちの小学校でよくこのような非難の声もあるし、私自身も小学校にいた時そのように考えていた。しかし自分自身が幼稚園教育に従事してみれば、右のような非難が必ずしも正しくはないことはわかる。それは、小学校教員の教育技術にも問題があるからである。けれども又、それでは現在の幼稚園に於ける保育の実状は、小学校側から批判する余地のないような望ましいものであるかというに、決してそうは考えられない。率直に言つて、私たち幼稚園教員は、保育を的確に行う「術」を持たない。ここに言う「術」とは、テクニクの意味ではなく教育の本質に立脚したところの、広く深いものを意味する。教職が一つの専門職である以上、それはだれにでもできるような通

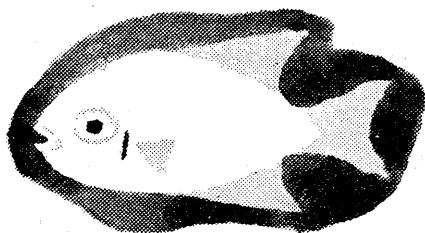
り一べんの技術に終つてはならない。「ほかに何も能がないから先生でもやろうか」といった類のものであつては困る。病人の診断や治療は医師の仕事で、絶対他の者の追隨を許さないように、私たちの技術も、もっと權威のあるものでありたい。それは何もセクシヨナリズムに陥るのではなく、幼稚園という、特別に準備された教育施設で子どもを教育する以上、教師としての良心に訴えても当然のことであろう。若しそうでなければ、少し気の利いた子守と何ら選ぶところがない。こんなことを言う経験者もまだ先生方から、
「それはまだ経験が浅いからだ」と叱られるかも知れない。確かにそれもある。しかし、それだけでは片付かない問題だ。前にも書いたように、私は、教育に於ける技術をテクニクと解していない。病人に対する、看護婦の仕事としてではなく医師の仕事として解している。どうしたら歌をじょうずに教えられるかとか、どんなに話したら子どもがよく聞いてくれるかと

言つた類の、子どもをうまく操つて行く小手先の技術でもなく、又、昔ながらの躰によつて、いわゆる御行儀のよい子を作ることもでもない。こんなことなら案外簡単だ。しかし、子どもを、未来のある貴い生命として、正しくすくすくと伸ばしてやるということは、口先で言う程容易なものではない。
「自由保育か一斉保育か」という問題が昨年の保育学会で取上げられたことは御承知の通りだが、子どもの自由を尊重しなければならぬということとは、理論的にはわかる。しかし又一方、集團生活に於ける規律ということも民主社会では欠くことができない。これを、あの自己中心的な幼児に實際にどのように調和させて行くか、言うは易くして行ふは難い。子どもの興味や要求に副つた保育という場合、その興味なり要求なりが、人間として当然の、正常な、しかも教育的見地から見て正しいものであるか、又幼児期特有の、つまり、幼児が正しく成長発達するために内から起つて来る

米国における学校教育の反省

— 門外漢の観察と所感 —

北
川
台
輔



Niwako

先づ最初に、今日アメリカの教育界でしきりに問題となっている「学校と社会」との関係について私自身の観察した所を延べてみよう。

元来凡ゆるの意味に於て、個人主義的な傾向の強いアメリカでは、児童の教育に關しても個性を尊重することを特徴としていたと言え

るのであるが、近年に到つてどうもそれだけでは甚だ一方的に片寄つた結果になることを認めざるを得なくなつたのである。というのは学理的にでなく極めて平凡な實際的な言い方をすれば先づ次のようなことである。即ち幼児の持つて生れた個性を伸ばすという原則で教育にあたる場合、往々にして「幼児の自然にしたがふことは之をドンドンやらせ、氣の向かないことは之を強いてさせない」という極端に走り易い傾向がある。教育とは外から色々なものを詰め込むのではなく、また無形の材料を一定の型にはめて十人一樣に仕上げられるものでもなく、十人十色個々人の持つて生れた個性を引き出し伸ばして、その最大張度まで成長せしめることにあるという理論で以て右のやうな、極端に言えば「仕たいことだけをしたい時にしてしたくないことは絶対にしないで済む」というやうな片寄つた自由主義が、進歩的教育の看板にかくれて相當に根強く教育界に影響して来たように思われる。

所がその結果を見ると、或意味では個性を伸ばし、持つて生れた天分を充分に發揮して夫々に専門家として大を為すに到る人物が現れて来たことは事實であるが、それと同時に余りにも多くの人々がどの道に於ても大した物にならないばかりか、国家の一員又世界の市民の一人としてまことに物足りない存在でしかないことに目を被ることが出来なくなつて来たのである。之を今少し具体的に述べる、例えば最近までアメリカの多くの大学で、医学部には黒人やその他の有色人種或はユダヤ教徒を全然入れなかつたり、また入れて

もその数を極端に制限したりする傾向があったのであるが、その表向きの理由は黒人その他は折角立派な医者になつても、患者が来て呉れなければそれっきりだから、一般に白人が理屈はともかく人種的偏見に支配されている限り、長年の労を重ねても無駄である。だからその方面に材能があつても、卒業してからくやむことのないように、最初から異つた方面に進むように忠告するといふのである。

所がそれは一般の白人が黒人やその他の人種に対して偏見を持っているといふことを不可避の事実とし、その前提の上に立つての苦しい言いわけであることは常識のあるものにはすぐわかるのである。

而してこれが非常に深刻な問題であるのは、このような大学側の態度が黒人その他に対して不当なものであるからばかりでなく、実はそれが教育そのものの意味も、理想もそれをその根底からくつがえしたにも等しい悲劇であるからなのである。

第一に人種と宗教の如何を問わず幼児の持つて生れた個性と天分とを伸ばすといふ教育の理想が実現されていないのみか却つて蹂躪されている。

第二に個性に重きを措くと言つてい乍ら、人をその属する人種、民族宗教などによつて判断し、彼は白人なるが故に此の途にすすんでもよいが、之は黒人なるが故にそれが出来ないといふと決定してしまうことは個性尊重の原理に正反對の行き方である。

第三に右のような人種的偏見によつて折角天与の材能を伸ばすことが出来ない人々が幾百千人とあるとすれば、それはその人々個々

人の損失であるばかりでなく、結局は国家のそして引いては全人類の損失である。

第四に、斯く冷静に考えてみれば人種を理由として差別待遇することの愚かはずぐにわかるのであるが、而もそれを世界での最高文明を誇るアメリカの、更にその中でも最も賢明なるべき最高学府の方針の中に、そうしたことが憶面もなく実行されているといふのはどうしたことであろうか。一体誰がそのような原則や方針を樹立するものであるうか。言うまでもなくそれは大学当局であり、大学教育を受け、世に名を成した人々ばかりの寄り集りである。そのような人々が何故あのように片よつた物の見方しか出来ないのであろうか。結局識者の間に、之までの大学教育は専門の技術や知識は教えるが、人をつくるという点では未だ未だ足りない所があるのではなにかといふことが反省せられるようになって来たのである。

この角度からの観察を今少しすすめてみると、大学当局を支配する人達は「自分達は勿論人種的偏見に捕われてはいないし、学生各々の才能を伸ばすことに大賛成ではあるが、一般社会がまだまだそこまで行つていないから、折角卒業はしたものの有色人種なるが故に、就職も出来ないといふことになつたのでは、却つて気の毒だからそのような悲劇を未然に防ぐことこそ我々の責任であるといふように答えるのであるが、それならば大学とは所詮は無知なる一般大衆の偏見を是正するのではなく、唯それに迎合し、追従して行くだ

けのものであろうかということになる。大学が世の迷盲を啓発して幾百年來の悪習を破り、真理の光のもとに正義の道を歩み得るよう一般を啓蒙指導することを以てその使命とせず、却つて世の支配を受けその圧迫のもとに屈從しなければその存在すらあやぶまれるというのであれば、折角の専門技術も學理もまことに何の為のものだかわからなくなつてしまふ。

私は今ここでアメリカの人種問題そのものを取り上げているのではなく、唯それを一つの窓として、それを通して「学校と社会」の問題の実相を眺めようとしているのである。上述した所で既に明らかのように、学校——下は幼稚園から上は大学院に到るまで——は社会と絶縁状態では存立し得ないものなのであるが、従来はともすれば学校を実社会から余りにも切り離して考え、學生時代を以て人生の何か特殊な期間、本當に生きているのではなく生きる為の支度をしているに過ぎない時代、であるというように考える傾きがあつたことは之を否むことが出来ない。その結果学校で教師達が目的とする所を、父兄を始め一般社会は全く理解せず、また理解しようともせず、学校の教育方針と家庭での訓育方針との間に全く矛盾撞着が絶えなかつたり、学校の教育を担当する先生達と、学校を維持經營する理事達との間に少しも意志の疏通意見の一致を見ないというようなことも亦少なからずあつたものである。

右のような状態のもとに一番迷惑をするのは被教育者に他ならぬ。例えば現今四十年代から六十年代の年令期にあるアメリカ人、即ち

社会の有ゆる方面でアメリカを牛耳っている人々は、その幼少の頃から大体三つの大きな影響のもとに成人した人々である。その第一は熱心な信仰者であるとなつてに拘らず二十世紀初頭に成長の過渡期にあつた人々は、何らかの意味で神を敬い、人を愛することを以て人倫の道であるということを、アメリカ文明の底に流れる伝統の中から汲みとるようになつて教え込まれて来たのである。第二に彼らは近代的教育を受けて、真理の探究と真理への服従を以て、知識人文化人の歩む途であることを教えられて来た。天來の個性を尊び之を活用し、何かに於て衆に秀でた専門家として人類の福祉に貢献することがその若い魂にやきつけられた幻であり理想であつたのである。併し乍ら第三に社会人となつた彼らを指導した精神は成功への一筋途であつたと言つてよいであらう。自分の腕に物を言わせて他人よりも一歩抜ん出ることによつて生存競争に勝利を得るといふこと、而してそれが産業文明商工業文明、技術文明のアメリカで、一切がドルによつてその価値を評価される限り、宗教の教える人倫の道も、学校の教える真理探究の道も、経済的な成功者とならんが為の競争によつてかき消されるが如くにおきざりにされてしまふ傾向を持つたのである。だから立派な教養もあり學識もある紳士淑女達、日曜日毎に教会に出席して神を礼拝することを怠らず、遠隔未開の土人間に伝道する為には幾何の献金を惜しまない敬虔なる人々が、同じ米国民の幾割かをその人種の故に、皮膚の色故に、或は又宗教の故に、正當なる經濟界の競争場裡から除外しようとい

うようなことを敢てするようになったのである。一たびそうしようということになれば理窟はどうにでもつくものだ。だが根本的な理由は世智辛い経済戦線に一人でも競争に参加する相手の少ない方が自分の勝ち目が多いということにあることを忘れることは出来ない。

或人々が白人は白人種なるが故に優等なるものであると主張するのは右のような理由による。それは併し乍ら現代の科学の光に照らして見る時には、全く根拠のない迷論であり亦迷信である。であるが故に、こうした信念？を一般社会人の心に植えつける為には、個性の尊重とは正反対の「全体主義的」なイデオロギーを捻出しなければならなくなつたのである。白人はどんな愚劣なもの不道徳なもの悪人であっても唯白人なるが故に、如何なる黒人よりも優れたものであるとし、黒人は黒人なるが故に如何に秀でた学者政治家であっても社会的には白人と対等に扱われ得ないものとして、頭から決めてかかつて、白人でも黒人でもこの独断論に反抗して行動するものは之を排撃してやまないというような、ヒットラーも顔負けしそうな徒輩が出現して来たのである。而して最も悲しむべき事実は米国の識者が、このような半精神病的な連中の言う所を敢て反駁せず、反つて彼らの声にひきずられるかの如く、有色人種に属する人々の個性を尊重し、彼らを一介の人間として人間らしく交際することを何か知ら後ろめたことのようにさえ感ぜしめられて来たということである。こうしたことが事実である以上、折角個性

尊重の教育も、いつの間にか附和雷同の愚民を大量生産したことにしかならず「デモクラシー」の代りに「デマゴグリー」の出現となり、真理と正義とが社会を統治支配する代りに、小さな政治家屋と之を操つる不逞の徒が良民を煽動して「多数決」の看板にかくれて自己の私利私欲を満たして行くという状態が出現せざるを得なくなるのである。事ここに到れば愛国を売物にし、民主主義を楯として、その裏にかくれ乍ら、最も恐るべき彈圧政治が行われ得るのである。

こうしたことをハッキリと目に物見せるが如くに示したのが一九四二年春の日系人の太平洋沿岸一斉立ち退きであり、一九四三年度夏のデトロイト市に於る白黒人の人権斗争であった。それ以来米国の社会の凡ゆる層の識者達が人権問題を真剣にとり上げ、殊に教育者達はこの角度から「学校と社会」の問題を考え直させられているわけである。

右の一例によつても、学校と社会とは相互に分離孤立してはあり得ないものであること明らかであろう。またその相互に不可分離なるものを無理に分離して考え、存立せしめて行くこととして来たことが如何にまちがっていたかは論を俟たないであろう。教育者達はそこに気がつくと直ちにその改善に努力しはじめた。一つには教育学そのものの領域内に於て之まで議論の余地ない自明の真理として考えられていた「性来の個性」ということの反省をし、之を近代の社

会学や心理学、人類学や生理学、その他凡ゆる分野の専門的な知識を綜合して研究し直したのであるが、その結果、所謂「性來の個性」なるものも多分に社會の傳統や環境の感化によるものであることがハッキリとして來たし、従つて所謂「個性を伸ばす」ということも「兒童の好みにまかせてささおけばいい」ものではなく、やはり色々な意味でディッシプリンされなければならぬものであるということが認められるようになって來たのである。

同時に又教育界の外部から政治科学者、社會学者、人類学者、精神分析学派の心理学者、その他人間を人間として綜合的に研究する人文学者達が、先述したような否定し得ざる結果から逆に從來の學校教育を批判し、色々な新しい洞察と見識とを以て、教育学者を応援することとなつたのである。このようなわけで毎年夏の休暇には全國の重立つた大學では、既に小学校や高等學校の教師として長年奉職している先生達の爲に短期の講習を設け、新時代のもたらす新らしい問題に直面し之を克服する實力をおさめさせようとしてゐるのである。その場合講習科目をにぎわす講座は多く、如何にして生徒達を社會人として円満な人物たらしめることが出来るかというようなこと、殊に學童と人權問題、地方政治、男女の交際、結婚への準備、國際問題等を取り扱うものが多いようである。

ということとは近代の學校教育が単に社會人としての常識を植えつけるだけのものとなりつつあるというのではない。余りにも専門的な知識や技術を修得することにのみ念を入れ過ぎた結果、或一つの

分野では博士号を持った専門家であり乍ら、社會人として自分の町や村の政治をはじめ、世界の動きなどについては全く定見を持たず従つて惡辣非道な連中の巧みな言辞に弄されて、つい心にもなく黒人排斥や國連反對などのバンド・ワゴンに載つてしまふという悲劇が余りにも度重なる現狀に鑑みて從來の行き方は反省を強いられることになつたまでのことである。

所が茲にまた笑うに笑えない悲喜劇が起るのである。即ち右に述べたように真剣なる反省と研究とを以て教育者が態々學校教育を改良しようとする、父兄側から思いもかけない反對の聲が上つて來る。「我々の時代には學校は読み書き算術を教わる所だつた。我々の子供達もそれ以外には何も余計なことを習わなくてもよい筈だ」と言うのである。こういう議論を吐くことそれ自体が從來の教育の欠陥を最も雄弁に物語つてゐるのであるが、御本人達はそれを反省する能力さえも持ち合せないかの如き有様である。悲しいことはそういう人達が父兄として又都民として學校の経営に相當の權力を持つておるといふことである。このような頑迷固陋の徒輩の爲に教育界の先覚者がどれだけその職を失つたかわからない。茲にも亦「學校と社會」の問題の極めて切実な一面を見るのである。

嘗てアメリカの公立學校が軌道に乗り初めた頃「學校中心スクールの中心の社會」ということが言われたものであるが、最近では「社會中心ソサエティ中心の學校」ということがしきりに言われているようである。それは學校が単に社會の奴隸となるというのではない。その意味する所は學校は唯

に児童中心で、児童の個性を尊重するのみでなく、その個性を形成する社会をも問題とし、又学校そのものの在り方行き方をも支配してやまない社会と、やがてその社会を動かすべき地位につく「明日の市民」としての学童の社会に対する認識と理解とを深めるということ、更に学童は学童として夫々の町や村の住民一般と、相互関係に於て生きていくものである以上、労資対立から発展する階級問題住宅や就職の問題に不可分離の關係を持つ人権問題などから、階離された存在ではあり得ない。こうした複雑な社会状況のもとに成長しつつある学童を教育するにはどうしても社会そのものを考慮に入れずにはおれないのである。「社会中心の学校」ということが言われる所以である。

次回には同じ観点から特にP・T・A（父兄教師会）のことについて聊か述べてみよう。

（筆者は一九三七年立教大学卒業、後渡米、ニューヨーク及びシカゴ大学神学部に学び、一九四二年太平洋戦争と共に、軟禁された。在米邦人の生活向上のために、聖公会牧師として努力した。一九四九年ミネアポリス市日米センターの牧師として、此の間市長諮問委員会の人間関係調整委員長として人種問題の解決のために貢献する所大きく、当地の日本人は勿論、ニグロ、アメリカインディアン、などから大きな尊敬を払われている。）



新 刊 御 案 内

倉橋惣三著
子供讃歌
B六三四頁 定価二六〇円 千二四

内山憲尙著
インドのお話集

あわてうさぎ
A五一七六頁 定価二二〇円 千二四

村上幸雄編

幼児劇集 **はるのひよこ**
A五一七六頁 定価二二〇円 千二四

長田 新著

フレールベルに還れ
B六一九四頁 定価二〇〇円 千一六

落合聰三郎・周郷博編

幼児劇集 **たのしい劇あそび**
A五三三六頁 定価二八〇円 千三二



株式会社

フレールベル館

東京都千代田区神田小川町2ノ5 電話東京(29)7781~7785 振替東京19640

夏が来た。

忙しさに追われてかけ歩いていた一学期を終えて、ほつと一息つく。いつもと違つた生活をできる夏休みは、私どもにとつて誠に嬉しい。毎日の保育、事務、研究会などとゆつくり考える間もなく過したときには、じゆうぶんに自分をとりもどすときが必要であることを感ずる。ことに教育の仕事にいきさかでもたずさわる人々にとつては、ゆつくりとした気分であらう。いろいろと考える機会を失つたら、何もかもだめになつてしまふ。

一個の社会人として、一人の人間として周囲の世界を見なおしてみよう。そして新鮮な空気をからだ一ぱいにとりいれよう。この頃のように忙がしくさわがしい世の中では、尙更のことよりのゆとりがなければならぬのである。それであればみんなが氣狂いじみてしまふ。

本誌は日頃、幼児教育の何たるかを考

編集後記

え、正しい幼児教育の道筋を見出したいと望んで、そのための努力をしたいと願つてゐる。技術も大切であるし、研究も必要である。だが教育で最も缺くことのできないものは、社会、人間、教育に関する見識である。個々の知識を実際に生かして動かしてゆく洞察である。技術も磨こう。研究にも励もう。それとともに教養を積むための時間をとつておくことも怠らぬようにしたい。

私どもの仕事のなかには、日日進歩する部分と、変化しない部分とがある。私どもは幼児教育の望みを何処に託するだらうか。

六月号、七月号と特別の編集をしたために、原稿がたまつてしまつて、執筆者の方々に大へん御迷惑をかけてしまつた八月号でもまだ明載しきれないでいる。九月号は例年の通り、日本保育学会の第八回大会研究発表を収録の予定である。暑さの折から、誌友諸氏の御健康をお祈りする。

幼児の教育 第五十四巻 第八号

定価金五十円

昭和三十年七月二十五日印刷

昭和三十年八月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願い致します。